

米軍住宅追加建設についてのアンケート調査結果報告書

2005年12月24日

Nippon der Gesellschaft 研究所（代表 森 元孝）

目次

調査に至るまでの経緯	-----	5
調査の目的	-----	5
調査の方法	-----	5
標本の回収状況	-----	6
基本データの内容	-----	7
暫定的考察 ー今後の調査研究のために	-----	35

調査に至るまでの経緯

1980年代ほぼその10年間を通して、逗子は「民主主義の実験」「わが国でこのようなタイプの市民運動が地域住民の支持を得て、粘り強く続けられた例はない」（『朝日新聞』1988年10月31日社説）としてマス・メディアをつうじてその社会運動の動きが注目された。論者は、この池子米軍住宅建設反対運動の過程と帰結を種々の調査で得た知見でまとめた¹。一連の運動を積極的に「市民的公共性」²というカテゴリーでくくることしなかったが、マス・メディア諸機関の報道を超えて、運動体が各戸配布するビラが独自の公共空間を形成していたという点では、そうした枠組みで捉えることにも意味があったと考えたい³。

しかし状況は変化した。政府は2003年7月18日、かつて問題となった通称「池子の森」の横浜市側に米軍家族住宅追加建設計画を発表。2004年9月3日日米合同委員会施設調整部会で当初反対であった横浜市も同市内の米軍諸施設返還を条件に受け入れ表明、神奈川県も一定評価を示し合意。しかし逗子市は反対を崩さず、9月17日横浜地方裁判所に「池子の森に米軍家族住宅を追加建設してはならない義務等確認請求事件」として提訴した。

1980年代ほぼその10年間を通して、逗子は「民主主義の実験」「わが国でこのようなタイプの市民運動が地域住民の支持を得て、粘り強く続けられた例はない」（『朝日新聞』1988年10月31日社説）としてマス・メディアをつうじてその社会運動の動きが注目された。論者は、この池子米軍住宅建設反対運動の過程と帰結を種々の調査で得た知見でまとめた⁴。一連の運動を積極的に「市民的公共性」⁵というカテゴリーでくくることしなかったが、マス・メディア諸機関の報道を超えて、運動体が各戸配布するビラが独自の公共空間を形成していたという点では、そうした枠組みで捉えることにも意味があったと考えたい⁶。

1. 調査の目的

横浜市が追加建設を受け入れ、逗子市が追加建設反対で提訴するという事態を踏まえ、当該地域の住民の意識および現在の日本の政治イメージについてデータを収集していくための基礎データとなるパイロット調査。

2. 調査の方法

調査は、質問紙法によるものであり、対象者に選択肢から選択をしていただく形式（A票）と、対象者に自由に記述していただく形式（B票）とから成っている。

- | | |
|-------------|---------------------------------------|
| (1) 調査地域 | 逗子市（逗子、池子、山の根、久木）、横浜市金沢区（六浦、六浦南、東朝比奈） |
| (2) 調査対象 | 上記各地域に居住する男女 |
| (3) 標本数 | 2400人 |
| (4) 標本抽出 | ゼンリン住宅地図から世帯名簿を作成して系統抽出 |
| (5) 調査票配布方法 | 郵送法（督促葉書1回も含む） |
| (6) 実査期間 | 2005年6月15日から7月15日まで |
| (7) 調査実施機関 | 早稲田大学文学学術院 森 元孝研究室 |

¹ 森 元孝『逗子の市民運動 - 池子米軍住宅建設反対運動と民主主義の研究』御茶の水書房 1996年。

² 森 元孝「公共性の形式 - 理論社会学の基礎理論」『社会学年誌』46号 2006年。

³ 森 元孝「市民的公共性」地域社会学会編『キーワード地域社会学』（ハーベスト社 2000年）218-9頁。

⁴ 森 元孝『逗子の市民運動 - 池子米軍住宅建設反対運動と民主主義の研究』御茶の水書房 1996年。

⁵ 森 元孝「公共性の形式 - 理論社会学の基礎理論」『社会学年誌』46号 2006年。

⁶ 森 元孝「市民的公共性」地域社会学会編『キーワード地域社会学』（ハーベスト社 2000年）218-9頁。

3. 標本の回収状況

	世帯数	人口(男)	人口(女)	人口(合計)	発送数	配達不能数	回収数	回収率	
逗子	7,180	3002	3448	6450	335	20	261	23.41	
逗子1丁目	314	290	365	655	37				
逗子2丁目	326	367	419	786	39				
逗子3丁目	165	189	203	392	20				
逗子4丁目	622	652	766	1,418	75				
逗子5丁目	380	416	452	868	46				
逗子6丁目	297	335	380	715	37				
逗子7丁目	674	753	863	1616	81				
池子	2329	2862	3238	6100	280				18
池子1丁目	255	306	338	644	30				
池子2丁目	1355	1 586	1 791	3 377	164				
池子3丁目	711	961	1 098	2 059	85				
池子4丁目	8	9	11	20	1				
山の根	1188	1310	1452	2762	144				8
山の根1丁目	296	304	360	664	36				
山の根2丁目	300	317	342	659	36				
山の根3丁目	592	689	750	1439	72				
久木	3,663	4,510	4,843	9,353	441				39
久木1丁目	217	257	256	513	26				
久木2丁目	247	314	324	638	30				
久木3丁目	386	474	514	988	46				
久木4丁目	511	632	666	1,298	61				
久木5丁目	344	446	459	905	42				
久木6丁目	184	255	231	486	23				
久木7丁目	222	277	283	560	26				
久木8丁目	1,387	1,637	1,880	3,517	168				
久木9丁目	165	218	230	448	19				
合計(逗子市)	14,360	11,684	12,981	24,665	1,200	85	261	23.41	

六浦	5,918	6,764	6,506	13,270	508	11	213	18.07	
六浦町									
六浦1丁目	1,035	1,015	858	1,873	91				
六浦2丁目	934	1,174	1,153	2,327	81				
六浦3丁目	1,631	2,100	2,072	4,172	141				
六浦4丁目	1,007	1,001	952	1,953	86				
六浦5丁目	1,311	1,474	1,471	2,945	109				
六浦南	4,362	5,440	5,659	11,117	472				9
六浦南1丁目	1,061	1,189	1,268	2,475	105				
六浦南2丁目	1,036	1,227	1,283	2,510	107				
六浦南3丁目	334	484	511	995	43				
六浦南4丁目	1,149	1,554	1,604	3,158	131				
六浦南5丁目	782	986	993	1,979	86				
朝比奈	2,570	3,387	3,517	6,904	220	1			
朝比奈町	152	217	189	406	12				
東朝比奈1丁目	1,010	1,331	1,433	2,764	88				
東朝比奈2丁目	788	1,026	1,080	2,106	68				
東朝比奈3丁目	620	813	815	1,628	52				
合計(金沢区)	12,850	15,591	15,682	31,291	1,200	21	213	18.07	
合計	27,210	27,275	28,663	55,956	2,400	105	474	20.65	

逗子市は 2005(平成 17)年2月1日現在、金沢区は 2004(平成 16)年12月 31 日現在の数字。

基本データの内容

調査票 A

問 1. 逗子市から横浜市金沢区にまたがる丘陵地の一部がアメリカ軍の住宅施設等に提供されていることをご存知ですか。次の中から 1つ 選んで番号に○をつけてください。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問1. 逗子市から横浜市金沢区にまたがる丘陵地の一部がアメリカ軍の住宅施設等に提供されていることをご存知ですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。	はい	度数	256	205	461
		対象地の%	99.2%	96.2%	97.9%
	いいえ	度数	2	8	10
		対象地の%	.8%	3.8%	2.1%
合計		度数	258	213	471
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 2. この地域の逗子市側には、1998 年までに 854 戸の米軍家族住宅が建設され、およそ 3300 人の米軍人とその家族が居住している事実をご存知ですか。次の中から 1つ 選んで番号に○をつけてください。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問2. 854戸3300人居住事実の認知	はい	度数	243	181	424
		対象地の%	94.2%	87.0%	91.0%
	いいえ	度数	15	27	42
		対象地の%	5.8%	13.0%	9.0%
合計		度数	258	208	466
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 3. 2003 (平成 15) 年 7 月、この地域の横浜市域部分にも米軍家族住宅を追加建設する計画が発表されましたがご存知ですか。次の中から 1つ 選んで番号に○をつけてください。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問3. 横浜市域部分への追加建設計画の認知	はい	度数	246	185	431
		対象地の%	95.3%	88.9%	92.5%
	いいえ	度数	12	23	35
		対象地の%	4.7%	11.1%	7.5%
合計		度数	258	208	466
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 4. (前問で「1. はい」とお答えの方におたずねします。) 追加建設される規模など建設計画の概要についてご存知ですか。次の中から 1つ 選んで番号に○をつけてください。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問4. 追加建設計画の概要についての認知	よく知っている	度数	43	16	59
		対象地の%	17.2%	8.6%	13.5%
	少し知っている	度数	118	68	186
		対象地の%	47.2%	36.6%	42.7%
	あまり知らない	度数	68	70	138
		対象地の%	27.2%	37.6%	31.7%
	知らない	度数	21	32	53
		対象地の%	8.4%	17.2%	12.2%
合計		度数	250	186	436
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 8. この横浜市域への追加建設に対して、逗子市は予定される土地に米軍家族住宅を建設してはならないこと、およびこの地域の緑地の現況を変更してはならない義務があることの確認を求めて、裁判に訴えています。このことについてご存知ですか。次の中から **1** つ選んで番号に○をつけてください。

		対象地			
		逗子市	横浜市金沢区'	合計	
問8 訴訟についての認知	よく知っている	度数	123	37	160
		対象地の%	47.9%	17.8%	34.4%
	少し知っている	度数	114	103	217
		対象地の%	44.4%	49.5%	46.7%
	知らなかった	度数	20	68	88
		対象地の%	7.8%	32.7%	18.9%
合計	度数	257	208	465	
	対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%	

問 9. 逗子市内において現在提供されている施設の建設をめぐって、1980（昭和 55）年の計画発表以来、1994（平成 6）年に至るまで、建設に反対する市民による「池子米軍住宅建設反対運動」が存在していたことをご存知ですか。次の中から **1** つ選んで番号に○をつけてください。

		対象地			
		逗子市	横浜市金沢区'	合計	
問9 池子米軍住宅建設反対運動についての認知	よく知っている	度数	181	67	248
		対象地の%	73.0%	33.2%	55.1%
	少し知っている	度数	61	122	183
		対象地の%	24.6%	60.4%	40.7%
	知らなかった	度数	6	13	19
		対象地の%	2.4%	6.4%	4.2%
合計	度数	248	202	450	
	対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%	

問 10. （前問で「1. よく知っている」「2. 少し知っている」とお答えの方におねがいします。）この市民運動に参加されたことはありますか。次の中から **あてはまるものすべて** を選んで記号に○をつけてください。

		応答数		ケースのパーセント
		N	パーセント	
1	ア. 「守る会」に参加	19	4.3%	5.0%
	イ. 「市民の会」に参加	15	3.4%	4.0%
	ウ. 生協およびそれに関連した運動に	11	2.5%	2.9%
	エ. 署名などに協力	145	33.0%	38.5%
	オ. 参加などはしなかったが反対だった	174	39.6%	46.2%
	カ. 反対運動に反対だった	75	17.1%	19.9%
	合計	439	100.0%	116.4%

1. 2 分グループを値 1 で集計します。

問 11. 市長選挙において、あなたは誰に投票をしましたか。次の中から **1** つ選んで番号に○をつけてください。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問11 前回の市長選挙	現市長	度数	152	139	291
		対象地の%	67.6%	84.2%	74.6%
	その他の候補	度数	73	26	99
		対象地の%	32.4%	15.8%	25.4%
合計		度数	225	165	390
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

- 〔逗子市の場合〕 2002（平成 14）年 12 月： 1. 現市長（長島 一由 氏）
2. その他の候補（具体的に ）
- 〔金沢区の場合〕 1998（平成 10）年 4 月： 1. 前市長（たかひで秀信 氏）
2. その他の候補（具体的に ）

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問11 前々回の市長選挙	現(前)市長	度数	146	88	234
		対象地の%	64.6%	67.2%	65.5%
	その他の候補	度数	80	43	123
		対象地の%	35.4%	32.8%	34.5%
合計		度数	226	131	357
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

- 〔逗子市の場合〕 2003（平成 15）年 9 月： 1. 現市長（長島 一由 氏）
2. その他の候補（具体的に ）
- 〔金沢区の場合〕 2002（平成 14）年 3 月： 1. 現市長（中田 宏 氏）
2. その他の候補（具体的に ）

問 12. あなたは現市長の政策・政治全般について支持をしますか。次の中から **1** つ選んで番号に○をつけてください。

		対象地		合計		
		逗子市	横浜市金沢区'			
問12 現市長の政策・政治全般について支持・不支持	強く支持する	度数	35	20	55	
		対象地の%	14.5%	10.3%	12.6%	
	どちらかと言えば支持する	度数	132	132	264	
		対象地の%	54.8%	67.7%	60.6%	
	どちらかと言えば支持しない	度数	46	31	77	
		対象地の%	19.1%	15.9%	17.7%	
	支持していない	度数	28	12	40	
		対象地の%	11.6%	6.2%	9.2%	
	合計		度数	241	195	436
			対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 13. (前問で「1. 強く支持する」「2. どちらかと言えば支持する」と答えた方にお尋ねします。)
例えば、どのような政策・政治を支持しているのですか。具体的にお書きください。

問 14. (問 13 で「3. どちらかといえば支持しない」「4. 支持していない」と答えた方にお尋ねします。)
例えば、どのような政策・政治を支持していないのですか。具体的にお書きください。

以上 2 問をまとめた、逗子市長、横浜市長それぞれについての結果と分析

「逗子市長の政策・政治全般についての支持・不支持」

支持の理由を見ると

■ 「市民的」ということ

- ・ 「住民の意見を聞きながら政策を進めるところ」(2： 67 歳男性・現住地在住 32 年・持ち家)
- ・ 「市民の意向を積極的に政策に取り入れ努力している」(15： 69 歳男性・現住地在住 37 年 2 ヶ月・持ち家)、「市民対応型の市政」(24： 64 歳男性・現住地在住 10 年・持ち家)
- ・ 「市民の目線に合った行政をしようとしている」(71： 58 歳男性・現住地在住 22 年 3 ヶ月・持ち家)
- ・ 「教育、福祉、街づくりに積極的で、市民の情報公開もすすみ、市政が身近になったから」(193： 30 歳男性・現住地在住

- 5年5ヶ月・持ち家)
- ・「市民参加を促している部分について」(208： 59歳男性・現住地在住17年・持ち家)
- ・「市民の立場にたった業務を行っている」(218： 58歳男性・現住地在住37年2ヶ月・持ち家)
- ・「市民の意見のくみ上げと市政への反映」(260： 71歳男性・現住地在住30年・持ち家)
- ・「市民中心的な施策」(277： 70歳男性・現住地在住28年・35現住地在住10年・持ち家)
- ・「市長さんの仕事が私共には解りやすい」(295： 69歳女性 現住地在住32年3ヶ月・団地)
- ・「若さ、住民本位の政策を懸命に努力しようとする姿勢」(336： 69歳男性・現住地在住30年・持ち家)
- ・「市民の視線での政治」(364： 70歳男性・現住地在住20年・持ち家)
- ・「市長としての動きが判りやすくなった」(384： 58歳男性・現住地在住58年・持ち家)
- ・「市民の意見を聞く姿勢がある」(415： 57歳男性・現住地在住4年6ヶ月・持ち家)
- ・「市民、国民のための政策・金権政治にくみしない」(433： 84歳男性・現住地在住8年4ヶ月・借家)
- ・「花火大会を20:00からにするとか(都内通勤市民の帰宅時間を考慮、夏の成人式を催す、小中の学区をなくすなど、若年層に優しいと思うため)」(462： 48歳女性・現住地在住12年1ヶ月・持ち家)
- ・「権力的でなく、封建的な政治家や団体のしがらみがないこと」(224)

上述の「市民的」と、「市民参加の街づくり」に言及したものはのべ数で40となる。

■「既成通念にとらわれない」「しがらみがない」「独自性がある」の言及があるもの、のべ28
「若いこれ迄の政治家の様に過去のシガラミにあまり縛られることなく新しい観点からこれからの逗子を考えている」(237： 69歳男性・現住地30年在住・持ち家)

■「情報公開」「オープン」「クリーン」の言及があるもの、のべ35
「判断力、実行力、クリーン、指導力あり」(41： 65歳男性・現住地在住25年・持ち家)

分析)

逗子市内で繰り広げられていた池子米軍住宅建設反対運動を、1987年から94年にかけて数種類のアンケート、インタビューなどで調査をしたことがある。この結果は拙著『逗子の市民運動』(御茶の水書房 1996年)としてまとめたが、このときの「市民運動」という意味は、まさに「市民」が主役、「市民」を自覚して、いや「市民」というものになって米軍住宅建設反対運動が繰り広げられていた。当時のT市長は、そして途中で受け入れざるをえなくなった後任のS市長の場合にも、まさに市民の代表という意味があったし、その素人くさは市民の中から出た市長というのが事実であったと考えている。

しかしながら、上に表されている「市民的」ということの意味は、「市長が市民的な視点を持つようになった」というそれである。「市民的」の意味が変化してしまったということがわかる。かつてのT市長、S市長はそもそも市長になろうと思っていたかどうかは疑わしい。むしろ偶然的な状況で市長にならざるをえなくなったというのが正しいところである。これに対して、N横浜市長の場合もそうであるが、このN逗子市長も、政治家になるという、しかもプロフェッショナルな政治家となるという強い意志・希望と、そのためのキャリアを踏んできたことがわかる。この場合には、「市民的」であろうとすることは、何よりも必要なことなのである。

- したがって、支持しない人の意見にあるように、「パフォーマンスが多すぎ」(22人)「将来像が見えない(11人)とともに、
- ・「今、彼は反対の姿勢をしめしているが、もともと保守的な考え、いずれ三島元市長と同じに何らかの理由をつけてうらぎるであろう」(35： 59歳女性・現住地在住60年・持ち家)
 - ・「アドバルーンばかりで市民にとっての市政ではない。実がない政策ばかり、議会軽視、近頃は特に市民参加という名のもとに市民に丸投げ!!」(315： 久木在住20年2ヶ月・持ち家)
 - ・「市民の現実的な問題解決に力点をみおかず、国政にかかわる問題を重視してスタンドプレーをする」(163： 79歳男性・現住地在住33年・持ち家)
 - ・「他地域からやって来て国会議員になる為に腰掛的にやっている市長で、元々住民のためとゆうより対外的に目立つ事ばかりやっている」(377： 75歳男性・逗子在住72年・持ち家)
 - ・「夏の成人式をSeaside Wedding Rivieraでする必要があるのか。立派な文化プラザホールでなぜしないのか。彼の趣味で市税の無駄遣いはやめてほしい」(388： 38歳男性・現住地在住5年2ヶ月・社宅・官舎)
 - ・「この米軍住宅地問題について裁判まで行こうとする政策は間違い」(452： 72歳男性・久木在住28年・持ち家)
 - ・「逗子都民といわれる人たちの票あつめにばかりとられるようなことばかり目立つ。海岸の美化はよいとしても(中略)目先の行動、人気取り、でも本当に市を活性化することを考えているのか? 池子米軍住宅についても、もっと、かけひきをしてほしい」(470： 43歳女性・現住地在住43年・持ち家)

という、一種の本質を見据え指摘しようとする、いささか厳しい批判と言えるものを見ることが出来る。こうした批判があたっているとすれば、「米軍住宅の追加建設反対ゆえに支持」(43人)という支持理由もちがって見えてくる。要するに「特に問題がないし、適当な人材がいなかったので投票した」(12人)というのも正当な選び方となる。

「追加建設反対」、そしてそもそもの「池子米軍住宅建設反対」ということについて、「ゆえに市長を支持する」(43人)「ゆえに市長を支持しない」(5人)が同居もすることになっている。

「横浜市長の政策・政治全般についての支持・不支持」

支持の理由

- 「政治が明瞭であり、市民と対話的で、かつ指導力を感じられる」(51)
- 「従来の(箱物)行政からの脱却と財政再建への努力を感じる」(31)

「横浜G30プラン・資源ゴミ回収などの環境への取り組みについて触れた回答」(22)、「若さがある」(7)
 「住民基本台帳ネットワークについての対応で国とは違う方針を貫いた」(7)

不支持の理由

- 「米軍住宅を受け入れたから」(14)
- 「パフォーマンス過剰」(8)
- 「何もしていない内容がない」(6)
- 「市民を見ていない」(4)
- 「受益者負担主義」(3)
- 「福祉政策軽減」(3)

意見の例

「具体的にといわれれば、今特に思いつくことがない。ただ現市長の〈姿〉は以前より、よく見えるようになったと思う。市政が身近になっている気がするし評価しようと思う」(221：59歳女性・現住地在住22年・持ち家：追加建設計画既知)
 「ゴミ問題等々、市民と身近に話し合う。種々の問題に熱心に取り組んでいる」(264：80歳男性・現住地在住6年4ヶ月・持ち家：追加建設計画未知)
 「若い世代に対応した考えをもっている。具体的政策には興味がない」(331：36歳男性・六浦南在住6年・持ち家：追加建設計画未知)
 「市の職員には支持されていないと聞きますが、痛みを伴う政策をやらないとダメです」(389：63歳男性・持ち家：追加建設計画既知)

分析

「政治が明瞭であり、市民と対話的で、かつ指導力を感じられる」(51)という市長への肯定意見と、「パフォーマンス過剰」(8)、「何もしていない内容がない」(6)、「市民を見ていない」(4)とは、基本的に同じ問題の裏表であると推測される。すなわち、現市長は、よく見えるように振舞っており、これが「公開性」「透明性」として積極的に捉えられる反面、これらのある種のシンボルをパフォーマンスで表現することになってしまうということであろう。

財政再建、行政改革を掲げて当選したことは、多くの地方自治体と同じである。「みなとみらい」開発に代表される「従来の(箱物)行政からの脱却と財政再建への努力を感じる」(31)ということであり、「横浜G30プラン・資源ゴミ回収などの環境への取り組みについて触れた回答」(22)もそのPR活動が活発であるゆえであり、これは上のパフォーマンスと関連している。「若さがある」(7)ことや、松下政経塾で学んだ世代であること、そして「住民基本台帳ネットワークについての対応で国とは違う方針を貫いた」(7)点は、国とは違う横浜を強調するという点で、首長には受容である。

行財政改革は、既存の権力構造の解体でもあるわけであるから、市の官僚構造とは敵対的になる可能性もあり、それゆえにできるかぎり「市民的」であることも市長には必要となる。ただし、「受益者負担主義」(3)「福祉政策軽減」(3)という一種のネオ・リベラリズム的傾向は、官僚構造とも敵対的となるが、同時に市民とも敵対的となる。

「米軍住宅を受け入れたから」(14)はこの数にとどまっている。「米軍住宅受け入れ」については反対ではないという人(2)も存在する。

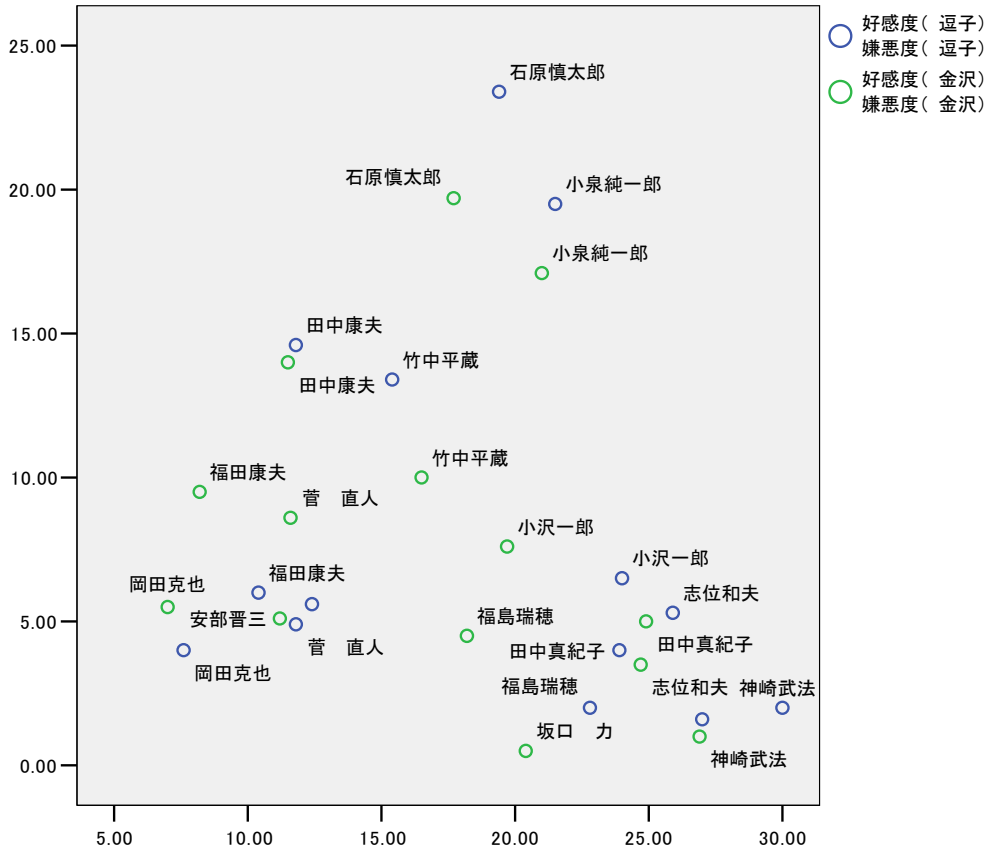
問15. 今、国政レベルでの選挙が行われた場合、あなたは次のどの政党の候補に投票しますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

		対象地			
		逗子市	横浜市金沢区'	合計	
問15 国 政レベ ルでの 支持政 党	棄権する	度数	10	13	23
		対象地の%	4.1%	6.8%	5.3%
	自由民主党	度数	92	65	157
		対象地の%	38.0%	33.9%	36.2%
	民主党	度数	82	75	157
		対象地の%	33.9%	39.1%	36.2%
	公明党	度数	0	3	3
		対象地の%	.0%	1.6%	.7%
	日本共産党	度数	19	10	29
		対象地の%	7.9%	5.2%	6.7%
	社会民主党	度数	18	10	28
		対象地の%	7.4%	5.2%	6.5%
	その他	度数	21	15	36
		対象地の%	8.7%	7.8%	8.3%
わからない	度数	0	1	1	
	対象地の%	.0%	.5%	.2%	
合計	度数	242	192	434	
	対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%	

問 16. あなたは以下にあげる政治家たちにどのような印象をお持ちですか。それぞれあてはまるものを1つ選んで記号に○をつけてください。

1. 安倍晋三 2. 小泉純一郎 3. 福田康夫 4. 竹中平蔵 5. 岡田克也 6. 小沢一郎
 7. 菅 直人 8. 神崎武法 9. 坂口 力 10. 志位和夫 11. 福島瑞穂 12. 田中真紀子
 13. 田中康夫 14. 石原慎太郎

各氏について「1. よい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. わるい」の印象を聞いた結果を散布図で表現



これからあなたとあなたのご家族のことについてお尋ねします。立ち入ったことをお尋ねして恐縮ですが、ご協力おねがいがいい致します。番号や記号を選び、○をつけてください。

問 17. あなたの個人的な属性について教えてください。

◆ 年齢

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
AGE	20-29	度数	1	0	1
		対象地の%	.4%	.0%	.2%
	30-39	度数	7	14	21
		対象地の%	2.9%	7.0%	4.8%
	40-49	度数	25	26	51
		対象地の%	10.3%	13.1%	11.5%
	50-59	度数	40	58	98
		対象地の%	16.5%	29.1%	22.2%
	60-69	度数	80	56	136
		対象地の%	32.9%	28.1%	30.8%
	70-79	度数	71	36	107
		対象地の%	29.2%	18.1%	24.2%
	80-	度数	19	9	28
		対象地の%	7.8%	4.5%	6.3%
合計		度数	243	199	442
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

◆ 性別

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問17 性別	男	度数	184	141	325
		対象地の%	70.5%	66.2%	68.6%
	女	度数	45	41	86
		対象地の%	17.2%	19.2%	18.1%
	わからない	度数	2	0	2
		対象地の%	.8%	.0%	.4%
	回答拒否	度数	30	31	61
		対象地の%	11.5%	14.6%	12.9%
合計		度数	261	213	474
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

◆ 出身地

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問17 出身地	神奈川県	度数	107	90	197
		対象地の%	46.1%	46.4%	46.2%
	東京都	度数	49	33	82
		対象地の%	21.1%	17.0%	19.2%
	その他	度数	76	71	147
		対象地の%	32.8%	36.6%	34.5%
合計		度数	232	194	426
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

◆ 結婚

		対象地			
		逗子市	横浜市金沢区'	合計	
問17 結婚	未婚	度数	14	8	22
		対象地の%	5.4%	3.8%	4.6%
	既婚	度数	222	186	408
		対象地の%	85.1%	87.3%	86.1%
	その他	度数	4	2	6
		対象地の%	1.5%	.9%	1.3%
	回答拒否	度数	21	17	38
		対象地の%	8.0%	8.0%	8.0%
合計		度数	261	213	474
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

◆ 現在のお住まいでの居住年数

		対象地			
		逗子市	横浜市金沢区'	合計	
YEARS	5年以内	度数	6	14	20
		対象地の%	7.1%	16.3%	11.7%
	5-10年以内	度数	17	13	30
		対象地の%	20.0%	15.1%	17.5%
	10-20年以内	度数	11	22	33
		対象地の%	12.9%	25.6%	19.3%
	20-30年以内	度数	19	14	33
		対象地の%	22.4%	16.3%	19.3%
	30年以上	度数	32	23	55
		対象地の%	37.6%	26.7%	32.2%
合計		度数	85	86	171
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

◆ 現在のお住まいの種類

		対象地			
		逗子市	横浜市金沢区'	合計	
問17 居 住形態	持ち家	度数	229	196	425
		対象地の%	93.5%	96.6%	94.9%
	借家	度数	8	1	9
		対象地の%	3.3%	.5%	2.0%
	賃貸マンション・アパート	度数	4	2	6
		対象地の%	1.6%	1.0%	1.3%
	社宅・官舎	度数	2	1	3
		対象地の%	.8%	.5%	.7%
	その他	度数	2	3	5
		対象地の%	.8%	1.5%	1.1%
合計		度数	245	203	448
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

◆ 勤務先の所在地

		対象地			
		逗子市	横浜市金沢区'	合計	
問17 勤 務地所 在 地	お住まいの逗子あるいは金沢区	度数	41	36	77
		対象地の%	24.6%	24.7%	24.6%
	横浜市内	度数	26	40	66
		対象地の%	15.6%	27.4%	21.1%
	東京都内	度数	43	37	80
		対象地の%	25.7%	25.3%	25.6%
	その他	度数	57	33	90
		対象地の%	34.1%	22.6%	28.8%
合計		度数	167	146	313
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 18. あなたは現在、お仕事をお持ちですか。次の中から **1** つ選んで番号に○をつけてください。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問18 職業の有無	仕事あり	度数	99	100	199
		対象地の%	41.9%	49.8%	45.5%
	パートまたはアルバイト	度数	21	22	43
		対象地の%	8.9%	10.9%	9.8%
	年金生活者	度数	94	59	153
		対象地の%	39.8%	29.4%	35.0%
	家事専念	度数	12	12	24
		対象地の%	5.1%	6.0%	5.5%
	その他の理由で無職	度数	10	8	18
		対象地の%	4.2%	4.0%	4.1%
	合計	度数	236	201	437
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 19. **お仕事をお持ちの方だけにお尋ねします。**あなたが働いていらっしゃる従業先はどのような事業を営んでいますか（業種）。次の中から **1** つ選んで番号に○をつけてください。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問19 業種	農業・漁業・林業	度数	3	1	4
		対象地の%	2.4%	.8%	1.6%
	建設業	度数	7	17	24
		対象地の%	5.5%	13.4%	9.4%
	製造業	度数	19	21	40
		対象地の%	15.0%	16.5%	15.7%
	印刷・出版業	度数	6	3	9
		対象地の%	4.7%	2.4%	3.5%
	卸売・小売業	度数	11	11	22
		対象地の%	8.7%	8.7%	8.7%
	金融・保険業	度数	6	7	13
		対象地の%	4.7%	5.5%	5.1%
	不動産業	度数	6	1	7
		対象地の%	4.7%	.8%	2.8%
	運輸・通信業	度数	6	10	16
		対象地の%	4.7%	7.9%	6.3%
	サービス業	度数	17	15	32
		対象地の%	13.4%	11.8%	12.6%
	医療事業	度数	7	6	13
		対象地の%	5.5%	4.7%	5.1%
	教育事業(公務員を除く)	度数	5	7	12
		対象地の%	3.9%	5.5%	4.7%
	福祉事業(公務員を除く)	度数	4	1	5
		対象地の%	3.1%	.8%	2.0%
	公務員	度数	14	6	20
		対象地の%	11.0%	4.7%	7.9%
	その他	度数	16	21	37
		対象地の%	12.6%	16.5%	14.6%
合計	度数	127	127	254	
	対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%	

問 20. あなたはそこで、どんなお仕事をなさっていますか（職種）。次の中から **1つ**選んで番号に○をつけてください。

問20 職種		対象地		合計
		逗子市	横浜市金沢区'	
一般職・総合職	度数	39	40	79
	対象地の%	27.7%	29.0%	28.3%
販売的職業	度数	11	5	16
	対象地の%	7.8%	3.6%	5.7%
事務的職業	度数	2	10	12
	対象地の%	1.4%	7.2%	4.3%
サービスの職業	度数	10	8	18
	対象地の%	7.1%	5.8%	6.5%
熟練の技能・作業職	度数	4	7	11
	対象地の%	2.8%	5.1%	3.9%
単純作業職	度数	0	1	1
	対象地の%	.0%	.7%	.4%
専門的技術者	度数	15	17	32
	対象地の%	10.6%	12.3%	11.5%
専門的職業(弁護士・医師など)	度数	15	13	28
	対象地の%	10.6%	9.4%	10.0%
専門的職業(作家・音楽家)	度数	3	2	5
	対象地の%	2.1%	1.4%	1.8%
政治家・議員	度数	3	0	3
	対象地の%	2.1%	.0%	1.1%
農林漁業	度数	1	1	2
	対象地の%	.7%	.7%	.7%
その他	度数	38	34	72
	対象地の%	27.0%	24.6%	25.8%
合計	度数	141	138	279
	対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 21. あなたの昨年1年間（平成15年1月から12月）の臨時収入を含んだ収入（税込み）を教えてください。また家族のある方は家族全体のおおよその収入を教えてください。次の中から当てはまるものを選んで〔 〕内に記号をお書きください。

〔家族全体の場合〕

問21 年 収(家族 全体)		対象地		合計
		逗子市	横浜市金沢区'	
なし	度数	3	3	6
	対象地の%	2.5%	3.1%	2.7%
100万円未満	度数	1	4	5
	対象地の%	.8%	4.1%	2.3%
100万円以上300万円未満	度数	5	3	8
	対象地の%	4.1%	3.1%	3.6%
300万円以上500万円未満	度数	13	12	25
	対象地の%	10.7%	12.2%	11.4%
500万円以上700万円未満	度数	24	16	40
	対象地の%	19.7%	16.3%	18.2%
700万円以上900万円未満	度数	24	13	37
	対象地の%	19.7%	13.3%	16.8%
900万円以上1100万円未満	度数	16	15	31
	対象地の%	13.1%	15.3%	14.1%
1100万円以上1300万円未満	度数	12	9	21
	対象地の%	9.8%	9.2%	9.5%
1300万円以上1500万円未満	度数	7	12	19
	対象地の%	5.7%	12.2%	8.6%
1500万円以上1700万円未満	度数	7	3	10
	対象地の%	5.7%	3.1%	4.5%
1700万円以上1900万円未満	度数	3	3	6
	対象地の%	2.5%	3.1%	2.7%
1900万円以上	度数	7	5	12
	対象地の%	5.7%	5.1%	5.5%
合計	度数	122	98	220
	対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 22. あなたの最終学歴を教えてください。次の中から **1つ**選んで番号に○をつけたうえで、在学中の場合は在学に、卒業の場合は卒に○をつけてください。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問22 学歴	中学校	度数	18	16	34
		対象地の%	7.3%	7.8%	7.6%
	高等学校	度数	47	65	112
		対象地の%	19.2%	31.7%	24.9%
	専門学校	度数	18	16	34
		対象地の%	7.3%	7.8%	7.6%
	短期大学	度数	5	8	13
		対象地の%	2.0%	3.9%	2.9%
	大学	度数	144	86	230
		対象地の%	58.8%	42.0%	51.1%
	大学院	度数	9	13	22
		対象地の%	3.7%	6.3%	4.9%
	その他	度数	4	1	5
		対象地の%	1.6%	.5%	1.1%
合計		度数	245	205	450
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 23. あなたが一番よくお読みになる新聞は何ですか。次の中から **1つ**選んで番号に○をつけてください。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
問23 購 読新聞	朝日新聞	度数	94	82	176
		対象地の%	38.1%	40.2%	39.0%
	読売新聞	度数	49	55	104
		対象地の%	19.8%	27.0%	23.1%
	毎日新聞	度数	36	17	53
		対象地の%	14.6%	8.3%	11.8%
	日経新聞	度数	39	24	63
		対象地の%	15.8%	11.8%	14.0%
	産経新聞	度数	7	7	14
		対象地の%	2.8%	3.4%	3.1%
	東京新聞	度数	2	3	5
		対象地の%	.8%	1.5%	1.1%
	その他	度数	16	13	29
		対象地の%	6.5%	6.4%	6.4%
	ほとんど読まない	度数	4	3	7
		対象地の%	1.6%	1.5%	1.6%
合計		度数	247	204	451
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

問 24. 次の中から、あなたがこの1年間に参加した社会的活動のすべてを選んで記号に○をつけてください。

		応答数		ケースのパーセント
		N	パーセント	
参加社 会集団 ¹	ア. 町内会・自治会など	162	21.7%	47.6%
	イ. PTA・子供会・育友会など	35	4.7%	10.3%
	ウ. 趣味・お稽古・余暇団体	150	20.1%	44.1%
	エ. スポーツクラブ・サークル	18	2.4%	5.3%
	オ. 学習研究グループでの活動	89	11.9%	26.2%
	カ. ボランティアや福祉活動	36	4.8%	10.6%
	キ. 地域問題関連の活動	76	10.2%	22.4%
	ク. 生活協同組合	52	7.0%	15.3%
	ケ. 宗教活動	60	8.1%	17.6%
	コ. 政治団体・政治家後援会など	26	3.5%	7.6%
	サ. 消費者団体などの活動	8	1.1%	2.4%
シ. その他の活動	3	.4%	.9%	
ス. とくに活動はしていない	30	4.0%	8.8%	
合計		745	100.0%	219.1%

1. 2分グループを値1で集計します。

問 25. あなたはこのアンケート調査票にご自身で回答されましたか。それとも、どなたかと一緒に回答されましたか。次の中から **1つ**選んで番号に○をつけてください。

			対象地		合計
			逗子市	横浜市金沢区'	
問25 入者	記 ひとりで回答した	度数	227	189	416
		対象地 の %	88.3%	89.2%	88.7%
	おもに家族と相談しながら回答した	度数	10	8	18
		対象地 の %	3.9%	3.8%	3.8%
	部分的に家族と相談しながら回答した	度数	6	8	14
		対象地 の %	2.3%	3.8%	3.0%
	おもに友人・知人と相談しながら回答した	度数	1	0	1
		対象地 の %	.4%	.0%	.2%
	部分的に友人・知人と相談しながら回答した	度数	0	1	1
		対象地 の %	.0%	.5%	.2%
	回答拒否	度数	13	6	19
		対象地 の %	5.1%	2.8%	4.1%
合計		度数	257	212	469
		対象地 の %	100.0%	100.0%	100.0%

* 調査票 B にもご記入をお願い申し上げます。

調査票 B

「池子の森」と呼ばれる地域と米軍家族住宅建設の問題について、あなたの考えられていることについて自由にお書きいただければ幸いです。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
自由回答(1)	回答なし	度数	93	85	178
		対象地の%	35.6%	40.1%	37.6%
	回答あり	度数	168	127	295
		対象地の%	64.4%	59.9%	62.4%
合計	度数	261	212	473	
	対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%	

逗子市の結果

意見	度数
追加建設反対・返還	79
追加建設容認	32
横浜市内他地域の返還があるので容認	5
追加建設黙認・不可避	18
逗子市の問題ではない	4
横浜市の姿勢について批判	4
緑の保全・自然環境保護の必要	59
住環境保全・道路事情悪化懸念	21
戦争反対・戦争関連施設反対	9
政府／防衛施設庁の姿勢を批判	36
アメリカ軍批判	16
日米安全保障条約の存在を考えれば仕方がない	18
反対ばかりの運動が物事を見えなくしてきた	6
条件交渉にはそれなりの意義がある	18
譲り合い・仲よし関係の構築は重要である	22
施設や土地は有効に利用していく必要がある	11
歴史や経緯についての説明が書かれているもの	12
行政の自然保護政策のアイデアのないことへの批判	3
横浜市長への批判	1
逗子市長への批判	5
かつての米軍住宅建設反対運動について言及	21
自衛隊増強・日本のプレゼンスの必要性強調	3

横浜市金沢区の結果

意見	度数
追加建設反対・返還	37
追加建設容認・止むを得ない	53
横浜市内他地域のへんかんについて言及	6
横浜市の姿勢について批判	5
逗子市の姿勢について批判	1
緑の保全・自然環境保護の必要	47
住環境保全・道路事情悪化懸念	7
アメリカ軍家族との交流促進	19
政府／防衛施設庁の姿勢を批判	14
アメリカ軍批判	4
日米安全保障条約の存在を考えれば仕方がない	31
条件交渉にはそれなりの意義がある	4
譲り合い・仲よし関係の構築は重要である	22
施設や土地は有効に利用していく必要がある	14
歴史や経緯についての説明が書かれているもの	2
行政の自然保護政策のアイデアのないことへの批判	2
池子の森を知らない・見てみたい	4
自衛隊増強・日本のプレゼンスの必要性強調	6

調査票B 逗子回収分 (主要例)

「池子の森」と呼ばれる地域と米軍家族住宅建設問題について、あなたの考えられていることについて自由にお書きいただければ幸いです。

「建設はいずれ開始されることであり、池子の森が守られてきたのも、米軍が利用していたからで、市の力でもなかった。もっと共存をうまく活用し、逗子市の発展をはかるべきだったのに、反対反対でいままで良くなるチャンスは一杯あったのに無駄にしてしまっており残念です」(03)

- 「・ 接収地であったがためによく自然が残されてきたと考えられる。日本に返還されると、最近の傾向としてよくても〈いわゆる自然公園〉と称する公園化が進められる恐れがある。〈自然公園〉といっても行政が考える〈自然公園〉というのは、ほとんどの場合(というより 100%)整備と称して下草を刈ったり、木を伐採して遊歩道を作ったり、あずま屋や休憩所を作ったり、もともとあった木を切って他所から持ってきた木を植えるなど破壊行為に等しいことを行うのが関の山である。
- ・ 従って私自身、以前は返還されることを望んでいたが、最近では〈池子の森の保全〉という観点からは返還されないほうが、かえって安全なのではないかと思うようになってしまった。
- ・ ・万が一、返還という事態になった場合、行政は〈何もしないことに金を出す〉という発想の転換が必要だと思う。〈池子の森〉だけではなく、日本中の自然度の高い地域を保全するには、今の世の中の仕組み=何かしないと金がでない、という基本的な考え方を変えない限りむずかしいのではないだろうか。
- ・ 米軍住宅建設問題から少し離れてしまったが、この問題に立ち返れば、何故「池子の森」でなければならないのか、非常に疑問思う。例えば代替地には追浜の日産工場跡地など、貴重な自然林を壊さずにすむ場所はくらでもあるのではないか」(04)

「本年には言って逗子ボランティアグループ主催や、池子の森に一番接している久木地区在住の市民と子供達で正式な許可をとって池子の森の一部、旧柏原村のあった場所に入ってみた。

数年前久木地区の〈ホテルの会〉のメンバーで入った時とは一変しロッジができたりバーベキュー小屋の設置、各エリアの整地、キャンプ場の設置等、驚ろくほどの素晴らしい風景に変わっていた。

数分で行けるこの地に私達住民は自由に往来出来ないのである。それだけでも逗子市民としてやりきれない感情を持っていることは事実である」(010)

「金沢地区についていえば、横浜市内の基地住宅が移り、その旧住宅部分が市へ返かんされるのであれば、ある程度、池子の森が浸しよく(マ)されても、やむを得ないと思う」(020)

「私個人としては都会に近い緑の森を残すことも必要でむやみに宅地造成うるのもどうかと思われませんが、一方国で決定したことはどう反対しても、早いか遅いかの違いで計画は進んでいます。それならばいかに市民に少しでも有利な条件で手を打つかも必要で最初の条件〈33項目〉は良かったが、市民の投票結果で反対運動が継ぎ現在に至って住宅は建設されても総合病院一つ出来ない有様で残念である」(021)

「横浜市に属する地域については、いわば他人の土地なのだから、たとえ当時国と逗子市との何らかの約束事があったにせよ、横浜市が承諾した以上、逗子市が反対するのは筋違いのような印象を持つ」(023)

「逗子市民としては〈池子の森〉の全面返還は当然の思いとして国へ求め行べきだと考えます。しかし、現実の問題として日米安保があり、横須賀に米海軍基地があるわけですから、今すぐに私達の思いが国の理解を得られる状況ではありません。基地(家族住宅)を持つ自治体として、市長はしっかりと国と対峙し話し合いのテーブルにつく交渉力を期待したいのですが、今のN市長にはその姿勢が見られません。

平成6年現在の854戸の住宅を受け入れるにあたり追加建設はないものと国と約束しましたが、それが逗子市域のみの話なのか〈池子の森〉全体のことなのか、今国と争っていますが、この裁判の結果いかににかかわらず、今回の横浜市域の住宅建設は、国と横浜市が同意している以上建設されると考えます。

今回の700戸の住宅建設による逗子市が受ける影響を考えると隣町の問題として、のんきに構えているわけにはいきません。入居後の沼間方面の朝夕の車の渋滞は大変なことになると思います。このことだけを考えても、今回の追加建設については逗子市は国としっかりと話し合うべきです」(028)

「東京方面から帰って逗子駅に降り立ったときのホッとした安らぎ、空気の違いを感じます。このような貴重な森を戦争準備組織軍隊の為になぜ破壊しなければならないのでしょうか、許すことは出来ません。米軍が日本を守るなんて信じられません。一部の階級は守られているかもしれませんが、それよりも間接的に、戦争する米軍を手助けしているのではないのでしょうか。

最大の環境破壊、戦争を世界中から一刻も早くなくしてほしい。日本が戦争する国になるのではないかと心配を通りこして恐ろしい」(034)

「私達は15年間池子の森を守る活動に緑を残したいと思い強くひかれ戦って来ましたがその結果残念であります住宅は建ってしまいました。あの時のくやしさはいまも忘れることはできません。子供達が小学校に入りまだまだ小さい子供でしたが家族が協力してくれて活動ができました。今はその子供も自分達の子供を作り私にも孫ができましたが今も私はこの孫達の為にも美しい自然、緑は守っていかねばならないと強く感じています。いつも私達の前に立ちはだかる日米安保条約、日米地位協定、バカげたおもしろい予算、今の政治家いや政治屋と言った方が正しいかもしれませんが本当に日本国の事を考えて行動している人達ははたして何人いるのでしょうか。国家中けいを見てても茶ばんです。今日は沖ナワの戦争が終わった日、

私も何年か目おまいりさせてもらいましたが、戦争は絶対起こしてはならない人間の持っている知恵で止めなければいけません。風化して行く事が一番怖い事だと思います。私は子供に家族仲良く人間を愛しなさいと教えて来ました。人を思いやる心があれば決して戦争などバカげた事は起きないと思いたいです。逗子市民もあの池子の運動をやった人達も年老いてきてだんだん忘れ去られて来ています。このようなアンケートを行なっただけに感謝いたします」(035)

「池子の森を守ることは大切な仕事だが、緑化推進運動家は森を手つかずにするのが守ることだと考えており荒れるがままに放置している。これは間違いであって、人手を使い手入れをしなければならない」(040)

- 「・池子の森と呼ばれているというのが一般的ではないと思う。反対運動が起きてからではないか？
- ・ 当市は大病院もなく高齢者がふえている現在、当初の建設とひきかえに病院の開設は重要ではなかったか？
 - ・ 米軍関係施設については、どこかがギセイになっており、又、池子弾薬庫の広さからいっても住宅何棟が建設されても何ら問題が起こるとは思えない。
 - ・ 宅地化が進んでいる現在、仮に返還された時、どこまで保存されるのか、又、東京への通勤県内という事から考えると住宅化はさけられないのでは？となれば住人が米国人であっても良いのでは。
 - ・ 米軍住宅が建設、居住によって地域環境の悪化という反対意見もあったが、現状では環境の変化があたとはまったく思えない」(055)

「仮りに民間の所有でしたら、駅の前ですから立派に乱開発の対象になって、森から林になってそれも残らないかもしれません。国有地だったからこそ自然が残っていたのかと思います」(057)

「〔逗子市内にある〕既存の住宅建設当時、国との約束ごとが建設反対〔運動〕によりほとんど無くなり、住宅は建設され現時に至った。

やみくもにただ反対の逗子市の行政のありかたが大変残念に思う。反体制的行動をとることにステイタス気分になるような市民が多くなり、人間性に疑問を感じる人種がふえ、又、その様な人種が行政をになうことにより、市広い発想の行政が出来ないことに住宅建設問題がややこしくなっているのではないかと思う」(092)

- 「・防衛施設庁(国)の態度はこそくである。〈池子の森〉と呼ばれている地区の解釈は当時明らかに横浜市の一部も含んでいた。その解釈をねじまげて米軍住宅追加建設をしようとするなどの強硬姿勢は許せない。
- ・ 横浜市も自分さえよければ(メリットがあれば)いいと言う市政は勝手すぎる。逗子市を横浜市の該当地区住民の迷惑を考慮すべきである。国の策略に迎合すべきでない。
 - ・ 裁判にて、良識ある正義の結果(逗子市の勝訴)を期待する」(0103)

「この森が残っているのは米軍のエリアに長い間あったことが理由なのはとても皮肉です。池子の森の返かん後にどのような姿で森を残しながら活かしていくかについて市民の合意ができていとは思われません。あるべき姿をきちんと定めておかないと日本に返ってきたとたん無残なありふれた首都圏の緑になってしまうかもしれません」(0117)

「1. 米軍家族住宅建設論議について
米軍家族が居住すること自体に対する賛否が前提にあると

反対の人→当然池子への建設も反対
賛成の人→池子なら反対 →反対者が増える→対案なし
池子でもやむなし

のような構図となり、成田に空港を建設したり、居住地にゴミ焼却場を建設するような場合と道標、外部から見れば反対論のみが浮かびあがる。特に反対を唱えるケースは確信犯的な専門的反対者が主導するため他の意見は見えにくいと思われる。一方、消極的であってもやむを得ないかな(適切な代替地がない)と思われる場合もあり回答者はこれを取りたい。

2. 池子の森と開発
〈池子を返還してもらい総合公園云々〉という提案があるが、個人的には
- (1) 人工的な公園は自然を破壊する
 - (2) 開発業者だけのための施策であるケースが殆どであり、先ず公園に用いる経費を逗子駅エレベータ/エスカレータ設置に向けるべきと考える。
 - (3) 逗子の自然環境で公園を追及するメリットは逗子市民にとって考えられない。人口の年齢構成を見ても目的が不明。→外部から人を呼び込み観光活性化を狙っているとすれば静かに生活したい住民にとっては逆効果
- の点から反対です。

3. 米軍家族問題
現在のような国際社会では外国人との交流という点で捉え、デメリットを解消するよう努力すべきと思います」(0121)

- 「① 根本的には沖縄の基地をどこに移動(転)するかという問題と同質。
②問題は成田空港の長い期間のこじれと同質。(中略)
③本音を言えば、逗子は防衛庁 etc.と大人の nego を1つしっかり金を取るべき →池子闘争の失敗(絶対反対だけで押した)→その金を20~30年先を見据えた逗子中心の緑地を残す(含む将来返還されるであろう池子地区)長期運動基金に充当すべきと思う」(0134)

「先日、〈池子の森ハイキング〉に参加する機会があり、初めて池子の森に行きました。我々が普段生活している町の山一つ裏側に、手つかずの自然の森が広がっていることに驚くと同時に、米軍に接収されていたおかげで、昔のままの自然が残されたことに感謝しました。つまり〈池子の森〉はかけがえのない財産だということです。これは、このまま後生(マ)まで残されなければならないと感じました。また、既にある米軍家族住宅は、我々から見ても素晴らしい施設がたくさんそろっておりうらやましい限りですが、あまりしようされていないように見受けられます。(軍事施設)ではなく〈住宅施設〉な訳ですから、も

つと地元の人々が気軽に交流をかわせるような環境にすべきだと考えます。実際、逗子市内では多くの米軍家族の方々が、買い物されたり、遊ばれたりしているのを見掛けることがあります。その逆もあってしかるべきではないでしょうか。歩いていける外国が、近所にあるということは、これからの国際化社会で生活していく子供たちにも有益なことは間違いありません。守るべきものは守り、変わるべきものは変化を受けとめることで、お互いに共存共栄することができると思われます。国や県が、米国からの要求を聞いてトップダウン的に決めるのではなく、当事者である地元の意見や客観的な事実を受け入れて、是非指導的な立場で共存共栄を推進してもらえればと思います」(0139)

「逗子の池子アザリエや沼間アーデン、グリーンヒル等ももともと山でそれこそ（人の手の入っていない自然）の場所であった。そこをくずして我々が入ってきたことを忘却の彼方に押しやり、米軍反対、新しいマンション反対、若い人が買える小さな住宅（土地を分割すること）反対と自己中心的で思いやりの無い高年者が増えている。だから逗子は高齢化率No.1となっているのである。

池子の森が日本へ返還された場合の案を見ると、〈緑とふれあう自然遊歩道〉の作成や公園を造るなど、〈自然〉という言葉が大義名分に振りかざしているが〈本当の自然＝人間が入っていない〉が残っているのは、米軍の池子地区だけである。

逗子市内では久木も沼間も池子もすべて日本人が利益の為に山を崩し住宅を建て散歩道を山中に造り、それによって野生動物のけもの道をこわし・・・

自然を残すなら日本人（人間）が入らないようにすべきだし、米軍のまま未使用の土地が保存されることを私は望んでいる」(0140)

「逗子に住むものとしては現在でも〈Y〉ナンバーの車が多く交通マナーの悪い人もいるし、又〈Y〉ナンバーの車の事故が多いのが現状。

住宅が増えるのはしかたないような事なのですが、横浜市側は返ってくる土地があるが逗子には無い。おまけに横須賀ベースに勤務する人は逗子を通って通勤。増々(マ)車の量も増えるし、交通事故の懸念も増える。逗子にとって何のメリットも無い住宅増はこのましくない」(0158)

「〈池子の森〉は日米安保条約の枠内にある。従って問題視するのであれば、国家にその解決策を提起する手段を考えるべきである。一市長と政府の一機関で解決できる問題ではない。市長は市益を優先した政策を進めるべきである」(0165)

「米軍家族住宅建設反対＝環境保全＝平和を愛するいい人」のような錯覚・虚構がイデオロギー左翼に簡単に結びついてしまうところに、我々世代の弱さがあるように思えてならない」(0131)

「〈緑と子供を守る会〉という名の上ついた(マ)運動で33項目の政府提案をファイにして???(0189)

「以前は反対であったが、大人になるにつれ異文化コミュニケーションの見識が広がり、米軍の友人もできたことから、反対でなく融和をしていけるのではないかと考え始めた。

また、日本の無策な開発にさらされるよりも、アメリカの管理下にあったほうが、池子の自然は守られるのではないかと思う。現に昔より近辺に友人も多く、また保育園や住宅地の前にあったため、良く見てきているが大きく変化していない。

また、逗子の今後の人口問題(高齢化)を考えれば、彼らの消費行動、もっと積極的な地域への融和策も考えるべきだと考えている」(0193)

「この問題に対して、いつも思うのは小さな市である(逗子市)がいつも不利益を受けているように思う。国や防衛庁とも対等な立場になれず、逗子市の主張は無視されている。住宅建設が何故(逗子)「池子の森」なのか世界情勢、特に北朝鮮と日本、アメリカの関係を考えたとき、複雑な気持ちである」(0231)

「池子の森を守ると云うことで争った逗子市は、長い時間を無駄にし結局は住宅が出来、何んのメリットもなく今日に至りました。今回の追加建設では横浜市は土地の支援を云う利益を得た。逗子市の言い分は無視されている。森の中の自然をその俎にすることもなく、あちこちを散歩道を作っている。だんだんと破壊していくことが思われます。しかし元に戻ったとき、その俎にすれば2-3年で戻ることだろうと思います。病院建設用地を云うことですが、これも国に代金を払うということだそうで、貧乏な市では使うことも出来ません。せめて無償で使わせてくれても良いと思います」(0256)

「1980年からの反対運動当時は、東京で新聞記事などで知っていましたが、平成9年に逗子市に移って以来、運動に係わった人達とも知り合い当時のこともいろいろ聞いていました。今回の追加建設の問題が起こってからは、現市長に投票することで反対の意志を表明しているつもりです。反対の理由は、まず池子の森はまとまった緑として残し、生態系を守ることが大切だと目に見えて減っていく逗子の緑を目の辺りにして切実に感じます。そして市が主張している様に国は追加建設はしないと約束をあくまでも守るべきです」(0261)

「現在 30 才の長男が小学2年生の時、池子米軍住宅建設問題が持ち上がりました。PTAに關っていた私は(・・・)で黙っていては子供に、次の世代に申し訳がでない〈守る会〉に入りました。理由としては①池子が貴重な自然だったこと、②子供の学校のとなりに戦争を生業とする軍隊に来てほしくなかったこと。といっても決していつもまなじりをあげて運動にかかわったというわけではなく、自分の都合のよい時、尊敬する人に誘われたときに自分のできることだけをやってきて、その代わり、いまでも〈守る会〉の一員だと自負している一人です。

4半世紀をすぎて米軍住宅は建設され米軍が移り住み、仮設小学校が建設され、今、小学校の本設と横浜地区に追加の住宅建設が計画中で、どんどん進んでほしくない方向へ事が押し進められて悲しくなります。いくら反対しても一部施政者の意向がどんどん押し進められていく様を体験して空しくなりますが、黙っていては始まらないと思い、こりずに自分の思いを折りにふれ表に出しています。

戦争とは人を殺しあうこと。折角生まれてきて戦争で命を散らし合う事は絶対容け入れられない」(0285)

「現在、横浜周辺で残されている最も貴重な森です。近年、森林が破壊されている事を考えると一層存在感は高まることと思います。こん

な時代を予想したのか前富の市長時代に**みどりを守る会**で保存する運動を国に働きかけましたが希望はかないませんでした。いまだ、アメリカの植民地であることの悲しい結末であると思うと非常に残念でなりません。こんな事が背景にある事と判っていても一生懸命に市民が反対、賛成、に2分し運動してきた事が今思えば非常に活力のある時代だったのか？ 自己の意思表示
今回も同様のケースが起こっていますがまったくその気配が感じられないのはなんだろう？
敗戦から早60年経った今もアメリカの統治下にある悲哀。60年武装もしなかった事も考慮し、そろそろ事項にしてもよいのではないか？」(0291)

「池子の地で一等地である米軍住宅地は戦前日本海軍の弾薬庫として居住していた人々が、強制、低価で移住をせられ戦後米軍が侵入し強奪を撤去した(ママ)した後、返還を切望し、要求したにも拘わらず、横浜市や横須賀市の横暴により米軍住宅が設置された。(池子の森)などと読んでいた人々よりも池子の土着の人々、特に追い出された人はあきらめ乍ら強い返還の要望を抱いている。私自身も老齢の故に活動には参加できる状態ではないが、これ以上の米軍住宅には反対である」(0292)

「この問題については既存の住宅等についても、また追加建設の件についても建設地域自治体独自の反対という意志では解決できないと考える。日米安保という根底の問題を抜きにして住宅建設問題はあり得ない訳だからである。規模は小さくとも沖縄基地問題と同質なのでと考えている。逗子、横浜の住民人という立場で考えては所詮地域住民エゴの域を出ない。日米安保を日本の安全保障と認めるならば住宅建設問題を認める他ない。国の約束違反という観点も国の安全保障政策を認めるなら批判する意味は薄れてくる。私個人としては憲法を守ることがありとあらゆる不利益をギセイにしても必要と考えるので、この基本に立てば現状は認めざるを得ないと考えている」(0294)

「80年代、90年代(池子米軍住宅建設反対運動)が全盛だった頃は、私も建設反対だった。その理由として一番大きかったのが、多くの方がそうであったと思うが、外国人とのトラブル等による治安の悪化である。しかし、今はどうかと言うと、私の近所にも米軍関係の家族の方が住んでおられるが、特にトラブルになったことはないし、まして沖縄で問題になっているような治安の悪化についても少なくとも私は聞いたことがないし、厚木基地周辺の騒音問題のようなことも感じない。確かに賛成は今でもできないが、米軍関係の方たちと、トラブルなく共存できる環境であれば、特に問題ではないのではと思う」(0309)

「(池子の森)の自然を大切にするのは勿論ですが、ただやみくもに反対するのではなく、秩序ある開発利用は逗子の様な産業のない所では今后とも必要ではないかと思えます。私達が35年前入居した(逗子ハイランド)だって以前は立派な自然だった事を思えば、やみくもに反対出来ません」(0310)

「国はあまりに身ががってすぎる。(池子の森)を残したかった。森は1つです。行政区分は返カンの時に示されるもの、あの当時は(池子の森)として1つだった。このままだと、後背地にも、追加建設をされるのではないかと心配」(0315)

「現在は家族住宅建設当時条件付きで賛成したが其の条件が(ママ)受け入れなかったので現在は反対。それに3000人以上の家族住民の多数が車で横須賀市方面に移動するので、逗子市内の道路は狭く飽和状態である。追加建設されると横浜市域からの車の流れが逗子市内の道路に入り横須賀方面に行くので今の飽和状態に拍車がかかる。返還を予定されている土地に分散追加建設すればよいのであって緑豊かな緑地をむずむざ破壊までして家族住宅を建設することは国家的喪失であると思っている」(0318)

「逗子市との約束には池子の森の横浜市側の土地は逗子市側ではないので関係はにと政府は云う。沖の鳥島は島ではなく岩と云う、どこかの国と良くにており、又、富士山は山梨県側であって静岡県側ではないとか」(0319)

「この池子の私の住宅は昭和62年に購入し主人の転勤でずっとそのままにして平成4年に帰ったときに建て替えて現在に至っていますが、当時は神武寺駅からの池子の森を見ても緑にかこまれ心なごんだものですが、住宅が出来てからはときには大きな音楽が流れてうるさかったり、Yナンバーの車の往来が多くなり車が渋滞する様になった。駅のホームから森の方をながめる景色も最近では慣れてきたものの美観を損ねます」(0328)

「当初の米軍住宅建設反対運動時より、建設は止むを得ずとの意見でした。沖縄をはじめ全国に在る基地の存在を考えた場合、他県、他市に在るは良いが逗子は困るとの意見には賛成しかねる。米軍家族との懇親を企る様なことを市は考えるべき。自然破壊を口実にしているが、隣地の鎌倉・逗子ハイランド(西武グループ)の開発は認めている。又、反対している人もそこに住んでいる人もいる。少ない国土を有効に活用する様、考えるべき、自然は極力壊さない方がよいが・・・」(0336)

「横浜地域に住宅を追加建設するとは言え、出入り口は池子になるのであれば、約束違反であるのは明白と思われれます。横浜地域と池子地域を物理的にセパレートし、横浜側にも出入り口を設けるならば納得します。別件になりますが、池子の森を逗子市民は知りません。戦後アメリカに没収されてからは市民は立ち入っていないのですから、素晴らしい森なのであれば市民にも解放(ママ)すべきと考えます」(340)

「思いより予算で山がけずられ米軍住宅とグラウンドが神武寺駅の隣接に広がる私宅から眺下に広範囲に広がる夜景がまぶしく私達の環境は薄く楽て村の存在グラウンドは昼夜閑古鳥未だ共用できない
横須賀米軍基地迄の通勤(ママ)スクールバスが往復車列をなし空席多い
池子の森のアメリカンスクールも建設される予定等矛盾だらけです」(0365)

「反対運動に立ち上がった通称みどりのおばさん達は、元々逗子市民ではなく、逗子の山等の一部を切り崩し緑を無くした連中が今度池子の森が無くなると反対運動を起し、それに乗った当時の新市長が頑固に反対の態度を取った為、結局住宅は建設されるは国の補償等は受けられず、残念であった。之が今回の総合病院誘致に影響している」(0377)

「京急線神武寺駅、同地から見ただけでも住宅地内には十分未使用の土地があることがよく分る。殆ど使われていないスポーツ用のグラウンドやコート。そこからのびる周辺の土地には人影さえめつたにない。逗子にはそれだけの人口密度の少ない場所はない。追加要求は現住宅地を充分活用しきっていないのに不当な要求である」(0381)

「私もMさんと御一緒に池子の運動をしてきたものです。これ以上米軍住宅を建てさせないと言う条件で現在の池子家族住宅を受け入れをしているにもかかわらず、国は約束違反をしています。横浜市側の住宅地域は横浜の4施設の返還とセットにしていることがとても腹立たしく思います。逗子市としては裁判を起こしていますし、昔の様に市民運動が起こりませんが、市民の殆どは心の中では怒っています。市民運動体の様な大きな力はないのですが、(残念ですが)1人1人が行政をバックアップして見守るしかないと思います」(0383)

「①池子米軍住宅建設に反対して自然と子供を守る会(会員)、②緑と子供を守る市民の会(会員)、③池子の森裁判を支援する会(事務局)、④池子緑の会役員(センター) 総ての運動に参加して 55 年より平成6年迄がんばって来ましたものです。横浜市金沢区に追加住宅建設と言っても池子の森の一部です。私達は絶対に反対ですが、横浜市は言ってもハズレの地域であり近くの六浦の人々でさえあまり感心(ママ)がなく、まして県知事、横浜市長が建設の方向に傾いています。裁判は総て国側寄りで終始してきた様な気がしました。(私達が起こした裁判ではなく)逗子市の行政が起こした裁判を見守り結果のみが気になります」(0383 友人)

「昔、ここに住んでいて旧海軍より強制的に居住地を追われた何人かの人達を親から聞いて知っている。又、幼年期には家の前に米軍キャンプが有り毎朝星条旗が上がるのを見て育って来ました。1980年に住宅建設の計画発表があり、市/家族を2分にした出来事もまだ記憶に新しい。当時の市長が条件闘争の手段で対抗しようとしたが結果的には、建設反対の市長が当選し逗子にとっては何のメリットもなかった。現在住んでいる米軍住宅の人達は、地域のお祭り等に参加して上手くとけこんでいると思う。沖縄で発生している様な問題は今のところ無く交通量が増えた事だけと考えている。今回の追加建設は逗子側にとって上記問題がさらに増える事が他所され好ましくない。旧ソ連の崩壊後、最近の国際情勢からいって急に横須賀基地がなくなる訳ではないが早く安定した世界になって米軍基地が縮小していく世の中になってもらいたいと願っている」(0284)

「このアンケートは池子問題については 1980 年(昭和 55 年)以降の問題として捉えているようですが、実際の歴史はもっと古く戦前に端を発していることを知って欲しいと思います。昭和 11~12 年頃(?)、当時池子にあった旧久野谷村地区が国に強制収用され、横須賀に拠点を置いていた日本海軍の弾薬庫としてその歴史は始まっています。戦後は米軍の接収され、米海軍池子弾薬庫として朝鮮戦争、ベトナム戦争等、幾多の戦争の後方支援基地としてその歴史を刻んできました。戦後の混乱が一段落した頃より、久野谷村の旧地主達の要望もあり、逗子市としては、この池子の基地の全面返還を議会で決議し、返還運動を起こしています。それ故住宅建設反対どころか、基地の返還運動そのものを進めて来た事を忘れてはならないと思っています。逗子は明治の頃より横須賀の近郊ということで、日本海大海戦で有名な東郷平八郎海軍大将を始め多くの将官、佐官の邸宅があり、又、士官や関係者の住む海軍住宅も数多くあったことを逗子生まれの私としては良く覚えています。歴史の変遷の中で気候、風土の良い逗子は住宅地として最適である事を考えるとき、改めて逗子という町の宿命的なものを感じます。今、私が考えるに、国による平成 15 年の横浜市側ひえの追加建設の言い分は詭弁でありおかしいと思います。横浜市側に住宅が出来るといっても住宅地内は 1 つの区域で自由に往来でき、大半の車輛が逗子市内に流れる事は明白です。しかしアジアにおける日本の立場、現状を知り、日米安保条約の重要性を十分に認識する時、米軍家族住宅建設の追加は致し方ないのではないかと思います。唯、逗子市民の中には、池子とは逗子地区も横浜地区も一体と考え、約束を違えているということで反対する人も多い事は事実です。私は政治は妥協だと思えます。双方の言い分の中にもお互いに一歩譲るという歩み寄りを心掛け、妥協点を早く見つけるべきです。逗子市の 30 年、50 年先の将来を考えるとき、明治の時代から逗子の歩んで来た道を振り返れば、答えは自ずと見えて来るような気が致します。

私は鉄条網が張り巡らされ、治外法権の及ぶ住宅基地ではなく、逗子市民も車輛も自由に行き来出来る塀のない住宅地区にし、米軍家族も逗子市民の中に溶け込める状況に持っていくことが最善だと思います。住宅建設憂いか容認の条件に、段階的にしる最終的には基地返還を早める事を目指していくべきだと考えます」(0386)

「アメリカは戦争に負けた日本に一体いつまで、土地を提供させ自国の軍おために利用しているのか? 池子の森ハイキング(?)に今年4月ごろ親子で参加したが、手つかずの自然が残っている貴重な私達の財産です。戦後 60 年一度白紙に戻せるものならもどして(ママ)ほしいと思います。日本政府も県も、市も、アメリカに対して何も言えないことは悲しいことです。(米軍住宅反対)と言っている間にか住宅ができ施設面でも、どんどん拡張しようとしているやり方には、小さな戦争をみる思いです。やはり日本各地で米軍に占領(?)されている土地その他を考えてみて、世界平和なんてのぞめないように思います」(0410)

「安保条約が存在する以上は米軍家族住宅は必要だと思いますが、国の強引な一方的押付的な建設には反対です。池子の森は三浦半島でも残り少ない緑地となっており、自然環境を保全すべき重要な拠点と考えています。米軍住宅の有り方は見直す余地があると思います。日本の住環境の現状を考えると、米軍住宅のみ恵まれた環境の中で存在し続けることは無理があります。逗子市内には米軍関係者の住宅やアパートがたくさん有り日本市民と一緒に生活しています。この様な方法も一つです。治外法権の柵の中の集合住宅だけでは無いと思います。一方で米軍使用地を返却し、一方で新たな土地を収用して新住宅を要求すると言う米軍の駆け引き的な方法、それに乗る日本側の策度はいただけないものです。

でも皮肉な見方も裏ではあります。戦後の日本の都市の潤いは米軍占領地返却のお蔭でもあります。(代々木、立川・・・等)占領地でなかったら、都市のスプロールで何も残らなかったかも知れません。池子の森も返却された途端に住宅や病院や公民館や健康スポーツ施設やらで埋めつくされてしまう心配もあります。現にそのような要求もあります。将来の計画をしっかりとさせて返却を待ちたいと思います」(0413)

「①住宅地にしては市民(日本人)との間が隔離すぎている。日本人も(ある程度)自由に立ち入りしたり交流できないエリアなら日本に返還すべき。②横浜市側への増築問題は横浜市にとっては末端地域かも知れないが、逗子市にとっては同じエリアの中の話である(問題の軽重のウェイトが両者で異なる)。中田市長らはどこまで逗子市民のことを配慮しているか疑問」(0422)

「日本が独自に軍備を持たない以上、米国との安保条約で米国に基地の提供は当然だし、その家族が快適に過ごせる住宅を提供する事も当然である。従って池子の森に住宅建設する事には賛成であり、一部の地域エゴによりこの様な国家事業を棒会してはならない」(0423)

「私の生まれたばかりの時(池子の森)は弾薬庫があり、それが爆発して親は大変恐ろしい思いをした・・・と聞きました。自然をそのままに・・・という考えもあるのですが広大な土地を何も手を入れずに存続するのは今の時代無理でしょう。ならば何でも反対するのではなくお互(マ)の幸せの為考え、歩み寄ってもいいのではないかと思います。今から10数年前(横浜の問題が入ってくる前)の池子米軍住宅反対で逗子市内が揺れたときも反対している人達は逗子で生まれた人達でなく途中から入ってきた人が多い様でした。俄住民の団体の様でした。扇動されて、何でも反対!というの考えものです」(0436)

「池子の森は逗子市の重要な財産です。逗子だけではなく、三浦半島の重要な自然です。それを一方的な政府側の意見で開発を行なうのは断固として反対です。ただし、米軍住宅に対して全面的に反対してはなりません。国際社会の中、相互が文化交流をできることは非常に良いことと思われれます。ゲートがなく、市民の往来が自由にできるところならば何の軋轢も出ないと思います。セキュリティに関しては、マンションならば通常日本と同じ様に出入り口で管理できるでしょう。

また、住宅が足りないからと言って、自然を壊してまで立てる(マ)必要があるのでしょうか?資産価値がある根岸本牧地区を返還されたほうが利益を生むからでしょうか?人の住んでいない、資産価値の低い山ならば崩しよいのでしょうか?大いに疑問を感じます。

神奈川県、横浜市の態度にも理解できません。当時締結した協約の本質を理解せず、詭弁を弄して当時の協約を破っているわけですから納得できません。

動植物保護、地球温暖化対策としても、原生林に近い池子の森は市民だけではなく国民にとっても重要な財産です。それを是非とも守りたいし、次世代に残したいと考えております」(0441)

「逗子はこの池子の森の問題で市が二分され本当に良くない市に成り果ててしまいました。山が大切で緑が大切なのは、ほとんどの人達が同じ考えです。緑はの人達(緑と子供を守る会)が行った自分達の意見と違う人達が商店をしていれば不買運動を展開し、子供達には緑派でなければ仲間はずれと云うとんでも無い事をくり返し行い、ついには住民達同士が疑心暗鬼に成って住民同士の繋がりは希薄になりました。一部の人達のヒステリックな行動が物事の全体を見ようとしないうる自分の気に入らない事は色々な訳を付けて住民運動と云うヒステリック教にしてしまう、とんでも無い事です。良識の有る方々がこの池子問題を振り返って冗談のように言います。〈反対!絶対池子の森の木は一本も切らせないと云って旗を振っていた方の住んでいる(東京から移住して来た)所は、昔は緑の豊かな山だった。あなたたちが移住して山を崩さなければ、池子の森よりもっと良かったのに〉(443)

「京急で神武寺あたりを通るとすっかり整備されてしまい、あの時の反対運動は何だったろうかと無力感を感じます。大きな力には抗しきれない。過去のものとなってしまいました。最近ではそれよりも法の抜け道を利用した最悪なミニ開発がまかりとおって目をおおむばかりです。情けない事ですすが積極的に反対運動をするエネルギーがわいてきません。再び無力感を味わうのをさせているのかもしれない」(451)

- ・ この問題について逗子市および市民が国の方策と地域自治をどう整合させるかが問われている。
- ・ しかし、今日(池子の森)は現市長のパフォーマンスと一部市民のエゴとで、無駄な選挙と裁判を行い、国策と地方自治の関係を意図的に難しくしているようにみえる」(0452)

「池子の森を有効に使うという意味では反対しても仕方がない。20年、50年先には返還されることも考えられる。秩序ある開発は日本人には望めない。米軍家族が増えることによる(通勤も含む)逗子市内の交通渋滞が考えられる。今でも朝夕の米軍住宅付近では日常的に渋滞している。国に対して反対するよりも市内の踏切(JR、京急)をなくすよう要望し生活環境を良くすることを国に対して交渉することの方が重要と考える。市長たる者まず住民の利益を考えるべきで国に対して何でも反対という様に見える事でパフォーマンスを行うことは住民のためにならない」(0459)

「かつてこれらの接収地ないに縁のあった家系。先祖代々の生活の場。池子の森と呼ばれているが、旧住民は池子神武寺駅付近を久木字柏原地区。池子の森の自然について逗子を二分化するかのような政治のゆがみを生んでしまった。しかしその自然度について大さわざなどするほどの高さはない。戦後の利用目的が終結してから単に一般人が出入り出来ない地域というだけであって自然度は低い。特に集落の山里の生活の場とは里山であり、各戸のかつての屋敷は埋立てられてしまっているし里山は常に燃料確保の場と炭やき、炊木、木材生産の場での屋根から里道までの間はいつもきれいに山々には人の目と手が入って手入れされていた。やっきになって保護の声を上げる価値の植生群落はない。池といっても生みだてた未完の地に雨水が溜まったにすぎず、奥の池も農業用水として毎年村人が手入れしていた。近年久木地区で〈ほたる〉が出る。農薬のない水が今も出てくるからであろう。誠に残念なことは人の手、目の入らぬ自然(里山)は藪性植物で見苦しいありさま。里山の自然は適宜人の手が入り治山治水が保たれていた。粘土質(ドタン質)の山肌は成長しすぎた枝張り根張りのアンバランスから山裾の地すべりが発生していたらしい(里山は枝下ろし作業こそ生活文化といえる)」(0466)

「日本経済が(バブル)のころ、逗子はこの問題にかかりきりでまったく他のことをしてきませんでした。今この不況時代にそのつけをおわされて商人はあえていると思います。政治家はきれい事ばかりのたまわず、(逗子市民に利益をもたらす)事にもっと力をそそぐべきだと思います。市民も説くに逗子都民といわれる方々に、自分の町がどうあってほしいか、きちんとした価値観をもってほしいと思います。昔なつかしい商店街はながめているだけでは消えてしまいます。どこにでもある大型店だけでよいのなら、逗子らしさは消えていく一方です。どんな町に暮らしたいのかもっともよく考えてほしいです。商人も又、一時的なお祭りイベントにばかり走らず不変的な町づくりを創造していくべきだと思います」(0470)

調査票B 金沢回収分 (主要例)

「戦後 60 年、例えば横浜本牧の米軍住宅跡地は個人に返還されたのに対し、池子の森の田畑 (旧) は、軍に強制的に買われたとの事が、今だ個人に返還されるほどの件は無視し、現在の問題ばかりが表面に出ているが、提供した地主の戦後は継いでいます(マ)」(1019)

「日本の国内に外国の軍隊が駐留していること自体、不自然な形であると思う。国民は大多数戦後生まれの世代となり、戦争の実態を知らない時代となっているが、元を正せば世界大戦が今の歴史をつくっている。人々は生まれた時から米軍が日本に駐留していることが当たり前のことのように受け入れているが実は異常な事態であることを理解していないし否定することを知らない。

米国との安全保障条約で日本が得ている利益も小さくないが失っているものも多くあると思う。例えば日本人としての独立心、自由で主体的な心や習慣等で、他に流されやすいという気質や同質性を形づくっている。協調性の高さも美德だが個性の無さという原因もひいてはそこから生まれているのではないか。

池子の森はそうした背景の中から生まれた 1 つの課題で、政治、経済、歴史の流れの中で生まれた地域の政治問題となった。近視眼的に見れば自然・環境破壊などが住民運動の 1 つのキーワードになっており、個人的にも緑が失われることについては反対である。〈日本は戦争をしない。しかし日本の国民と領土は日本自身が守る〉という強い信念を持つべきである」と考える」(1046)

- 「1. この建設により、横浜市内の他の米軍施設及び用地が返還されるので止むを得ないことと思う。
2. 日本の防衛のためアメリカ軍に協力するのは当然であると思う。
3. この建設により、丘陵地の豊かな森の緑が一部破壊されることは残念である。しかし、この 20~30 年間豊かな池子の森を破壊して逗子市は宅地造成を行なって今日に至っているのではないか。米軍家族用住宅の建設はダメというのでは余りにも身勝手すぎると思う。
4. 国、県、市も計画を了解しているので逗子市は協力すべきである」(1068)

「池子の米軍家族の家、横須賀のベースの家に (英会話を教えてもらう為) 何回か訪れたとき、おもしろい予算という事で大変素晴らしい施設や娯楽を見ると、その昔、山下公園などの金網ごしにみている大変羨ましい思いをした時に似ています。今、実際あそこに住んでいる方達は本国にいるよりも良い暮らしをしているのではないかしらと思ったことがあります。米国に守ってもらう為の代償は大変なんです。血税をあんな事の為に使うのは悲しいです。

私のつたない経験からもっと米軍家族の方達と仲良く交流できたら良いのと思います。又、家族の方々はボランティアに努力してもらいたいと思います。具体的にはわからないけれども、日本の予算で暮らしている事、知っているのかしら・・・」(1072)

「① 以前、横須賀市内に 1 年間住み、英会話スクールに通った。(スクールには 7 年いた。)そこでは米軍関係者の家族が講師となる場合が多く、また生徒は横須賀在住の人だった。横須賀の自動車学校では〈Y ナンバーに近づくな〉といわれる (事故しても当て逃げされたりするので)。個人的には講師はいい人でも、〈住宅のあまりの気前のよさ〉 (= 借り上げ社宅方式、電気・ガス・水道の個人負担なし) 西武開発の京急堀の内そばの当時中古でも 1 億円を超す 1 戸建て物件に新婚夫婦 2 人で住み、〈baby が生まれると狭い (!) から (横須賀) ベース内に引っ越すわ。〉と聞いて大変驚いた。またフィリピンのピナツボ火山噴火でスービック基地が閉鎖になり、その後フィリピン人家族をつれた米軍人がかなり増えた。そもそも、アメリカ人と日本人の住宅に対する意識が違う。〈思いやり予算〉が生まれた頃と今では日本の経済は状況が異なる。いわれるとおりに出す必要はない! **Host-nation support** では日本が一番米軍に金を出している。

②おけいごとの関係で逗子市内に通い知人もいるが、前回の反対運動では親子・友人・知人の間で賛成・反対をめぐり、ぎくしゃくしたという。京急神武寺駅から見える部分でもナイター設備つき野球場、テニスコート、プール、横須賀ベース内荷や行ったこともあるが、映画館もあり至れりつくせり。住宅もマンション 1 戸あたり 1 億円相当かけて 4 LDK で、若い夫婦で子供 3 人いて〈4 人まで大丈夫〉とかいう広さ。日本の国民にも (地元市民にも) その位の市営住宅、県営住宅ありますか? ちなみに、うちは 3 LDK で今もローンあります。

③もちろん電車から見える〈貴重な緑〉は保全したいし、金沢区は逗子池子地域ではないというレトリックをつかう約束違反の米軍と日本政府は許せません。基地はグアムでもどこでも行ってほしい。〈極東地域〉の定義を拡大解釈している。しかし、地元住民以外、日本の他府県でベースのない所、少ないところの人は〈あきれかえるくらい恵まれた基地の住宅事情や生活環境〉を全く知らない。理想や理念も重要だが、週末の情報番組などで〈こんな所に住んでいて、まだ戸数が足りないといってる〉という具体例を示して、一般の人に見せるべき!!」(1087)

「日本は独立国家なのに戦後 60 年も、また今後も外国の軍隊が駐屯しているのは異常と思う。独立国としての矜持はどこへ消えたのか? 仮に日米安保条約を是としたとしても、この条約に根拠のない〈思いやり予算〉で我が国の領土内に我が国の自然環境を破壊してまで米軍住宅を建設するのは、国辱ものである。中田横浜市長も結局は池子住宅に反対を貫けなかった」(1191)

「私は今もむかしも金沢区が一番池子キャンプよりに住んでいます。今もむかしもキャンプの近くで米軍及びその家族が問題を起こすような事は見た事、聞いた事はありませんでした。(中略) 日米安保条約がある限り、米軍の住宅等を提供するのはあたりまえではないでしょうか? 沖縄に 80% 強の基地を置いていて良いのでしょうか? 各都道府県が全体で応えるべきだと思います」(1100)

- 「(1) 自分は金沢区に居住しているが、米軍家族住宅建設には殆ど影響はないと思う。むしろ反対である。
- (2) 住民居住者がふえることにより、いろいろな商品の需要がふえるので近隣の商店がうるおうのではないか。
- (3) 緑が失われるとのことであるが、さほど影響はに。

(4)米軍家族との交流を計る(マ)様なことを考えるべきではないか。

(5)米軍家族住宅も特別な扱いをしない方法はないものか？ 色々な法律上、日米関係問題などがあると思うが、一つ一つ解決していけば良いと思います。・・・」(1104)

「池子の森はもともと弾薬庫跡地であり、自衛隊にでも利用されていた場合を考えると、日本と米国との関係を考えた場合、住宅地建設は止む得ないではとおもいます。又、瀬谷通信隊跡地を含め 130ha 以上の土地が返還される様聞いており横浜市は再利用計画中とか聞いております。建設予定地は、京急線で遮断されている様な地形にもなっているの、逗子市池子地区の住宅街とは、直に接しているわけではないのですから仕方ないと思います」(1113)

「この問題は本牧などの住宅地や他の施設の返還に替えて池子に代替住宅を建設することになったと諒解している。従って単純に〈池子の森〉＝〈米軍家族住宅建設〉だけを取り上げての論議は危険であろう。米軍の駐留については沖縄の問題、さらには最近東南アジア地域の総合司令部を横須賀に置くといった案も出て来ている中でもっと総合的に（米軍の駐留規模、地域性、駐留の期限 etc）検討を加えるべきであろう。環境の事を考えれば、池子の様な自然を破壊する住宅には建設するしかないが・・・」(1115)

「日米安保条約がある以上、日本のどこかが基地のために使用されるのは仕方ないと思う。今は沖縄に負担がかかっていることを思うと他のどこかが担うのは当然かと思う。近所でもゴミ置場のことでよくモメます。(必要(近所にほしい)だが我家の前は困る)とモメます。基地とゴミ置場＝安全とゴミは基本的にどう考えるかかわらない限りかわっていかないと考えています。基地がある以上、住宅も必要になります。世界中から戦争、紛争がなくなれば基地はなくなるでしょう。私としては池子に住む人達と交流がもてれば、仲良くできればいいと思いますし、日本の企業が住宅を建てると緑を残すという考えがないのでアメリカの方が緑を大切にしてくれそうなので、又、仕方ないかな、です」(1126)

- 「・池子の森と地続きの住宅地に住んでいるが、この住宅地も山を切り開いて作ったところであり、自然破壊といった意味では米軍住宅の建設をウンヌンできる立場ではない。かつて本牧のフェンスの向こうの米軍住宅を見なれた目からすると、森に囲まれて向こうの様子が殆どわからないのも違和感のない原因かも知れない。
- ・ 当初、治安の悪化を心配したが、米国の経済が好調のせいなのか、米軍人の乗っていた廃車寸前の日本車が新しい日本車になり、外から見ると落ち着いた感じになり治安の点でも問題はないかもしれない。当住宅地にた米軍人家族も減ったようである。
 - ・ 池子の森の中を散策してみたい。(裏山を歩くと、フェンスで立ち入り禁止となっているので)
 - ・ 日米安保のことは難しくよくわからない→思いやり予算の是非もわからない」(1141)

「数年前か数十年前か記憶が薄れているが、フレンドシップで逗子の米軍住宅に何回か足を運んだことがある。広大な池子の森のほんの一部ではあるが立派なマンションと思われる住宅が建設されていたことに（自分がイメージしていた住宅とかなりかけ離れていた）びっくりさせられた思いがある。ただ、人と自然との住み分けはきっちりとされていたようだ。開発する（造成する）場所は必要最低限とし、残すところは最大限に残すという、そういう考えを持ったいるんだなと感じた。35年前はライフルを持った兵士が猫一匹も入ったらうちまるといったふんいき(マ)があり、フェンスの周りには葉きょうもゴロゴロ落ちていた。そんな時代から考えれば、本当に平和になったもんだと思う。最後に池子にしても根岸にしても米軍住宅はフェンスの向こうのアメリカである。もっとオープンにすべきだ」(1142)

- 「・数年前ですが旅客機にて横浜上空を見たとき、緑があまりに少ないので驚いたことがあります。東京を中心とした一極集中が極端な形で表れて(マ)と思いました。私は今住んでいる六浦周辺はマンションの窓から池子の緑が見えて遠く鎌倉の方へ延びている風景が気に入って、今のマンションを購入しました。これ以上、緑を壊してほしく有りません。
- ・ こんどの米軍住宅建設のエリヤが逗子市でないというだけで、現在米軍住宅の円状に増設することは正当性に疑問有り。この様な判断には賛成できない。
 - ・ 米軍は日本を守っているという認識は現在あてはまらない。又、日本政府が米の核の傘に入っていることを認めていることも独立していないことの証明である。米軍はあくまでも自国の利益を基準として日本に基地をおいていることは常識。いつまでも米だのみでは、日本の国益を損ねる（損なわれる）(国連の常任理事国入りに周辺国が反対している)」(1143)

「金沢区六浦に移り住み 40 年弱、神武寺近く故、多く通り、池子の森を見てきました。すばらしい自然を見てほっとした気分を癒してくれたと思います。子供が出来て公園へ遊びに行きプールで泳ぎ、野球をし、見上げれば緑でした。しかし世の中は移り、我が国とアメリカとの関係、グローバル化の中で他国との関係いろいろ考えてみますと、どうしても国の考え方も理解しなければいけないと思います。私は自然も大事、我が国は持たないため、アメリカも必要だと思ふ(傘の下)。結論を言えば自然との調和を考え、又、住民の意見を聞き、歩み寄って話し合いゆずり合う妥協点を見出す事は必要」(1162)

「池子米軍住宅建設について反対の意見を持っております。逗子市の米軍住宅建設について多くの時間と協議を重ねて決定された事項であり、これ以上の住宅建設に必要性が有るとは思われぬ。なぜ、1990 年代の協議で合意した内容を更に拡大して施策しなければならないのか理解できない。米軍の日本における規模が拡大されないのであれば、現状維持、又は縮小に向かうべきで、新規に建設を行うべきではない。仮に米軍の住宅が不足（軍の規模が拡大しないのであれば）するのであれば民間住宅を利用する政策も、対策の 1 つではないか。代替案はあるように思える。新規の基地拡張は後に問題（米軍基地の縮小課題）を先送りすることになるものと思われぬ。詳細は計画を把握してはおりませんが、全般的に考えて上記の意見となります」(1188)

「反対する団体、個人が広がっている事が納得できない。自然を破壊すると云うがそれではどこなら良いかと問いたい。反対している人達にエゴを感じてならない。アメリカ軍の駐留そのものは是非になってしまう。北朝鮮と切迫している関係を考えると米軍に居てもらわなければならないと思うから、反対者の思想の根本にかつての左翼の社会主義国に対する同調を感じずとつとする」(1192)

① 金沢区に住んで 33 年になるが池子の森についてあまり関心はない。古くは弾薬庫と呼ばれていたが逗子線で神武寺付近を通っても単に“山”があるだけで特に親しみもない。それが整備された市民の森ならばまた違った印象になったか知らないが逗子市民のグループが問題視することが理解できない。従って緑がなくなるからとか云っているが住宅ではなく公園にしても整備されれば緑はなくなる。ならば“現状”（自然のまま）で良いかという、あのままでは緑があると云うだけで意味がない。

② 米軍住宅云々については日米安保条約がある限り提供の義務があればいたしかたない。また磯子を返還されたら代替地が必要となり、それが池子の森（横浜市側部分）をあてたと云うことである。少なくとも電車から（車窓から）神武寺付近の住宅を見る限り特に印象はない。強いて云えばよく整備されていると思う。特に景観を損なっているとは思えない。

③ 最後に一言、池子の緑を守れとか云っているがそういうことを云っている人達も山の根や東逗子の住宅に住んでいるのではないか。そこも以前は山であり緑であった。造成された土地に住んだ住民が自分達はともかく、これから緑をなくすなと云っていることがおかしい」（1210）

「私は出来るなら米軍にかかわる全ての施設はない方がよいと言うことは充分わかっています。しかし今、この逗子池子の森が返還になった時の姿を思うと返かんがよか悪いか考えてしまいます。仮に返かんになったら今の日本の（というか社会全体の）風潮で見ていると、あつという間に大手ディベロッパーの手に渡り、あつという間に家が出来事ぐらいでは済みません。山が全部丸裸になり、チッチャな家が出来、緑の保全なんてどこ吹く風です。今あの一体(マ)は米軍が有るからあの緑が残っているのです。私は今米軍あつて結構と思っっているのです。貴方達は“返かんしろ”“住宅反対”といっている人々の後ろに何が来るのか考えてほしいのです。見てごらん下さい。あの反対側の山々は全部削られ何十年も前から家、家、家です。どこに緑の保存があるのでしょうか。私はこの運動には積極的に賛成できないのです。この事が皮肉にも緑の保存につながっているからです」（1211）

「どんな場合でも自然林を無くすことは反対である。森林が温暖化防止、大気の大浄化に大切であることは常識である。一方、米軍横須賀基地の存在については容認である。日本は第三国、そしてテロに対しての防衛にまだまだ米国に頼っていくのがベストと思っている。とくに首都圏防衛に関しては横須賀が大切な地域と思う（但し原潜は放射能リスクがあるのでいただけない）基地（ベース）があれば当然、これにかかわる家族があるわけで、住居は必要不可欠である。贅沢でなく、適切であれば当然確保する必要があります。（従来より横須賀市が建設反対してきたことはその真意がよくわかりません）。私はこの問題はあまり（切り口）も多くないので、すなお(マ)に検討すれば（追加建設）に賛成であります。自然林が少し減少してもやむをえません」（1212）

「(1) “池子の森” とか “米軍家族住宅建設の問題” について、自分の考えを述べる前に、日本は米国と日米安保条約を締結し、詳しい事は分かりませんが、日本を守ってもらっている事実があります。日本を守ってもらう米国の軍人に対して住居を与えるのは当然です。住居が不足してれば、増やさなければならぬではありませんか？

(2) もし、住居を増やすのは “駄目” と言われるのなら、どうすれば良いのですか。究極は、日本人で日本を守るしかありません。

(3) 上記(1)および(2)の事項を踏まえて、主題を考えてみます。

1) 池子の森について： 池子の森は森林が巾広くつらなり、自然がいっぱいです。私の家からも、春にはうぐいすの鳴き声が開こえてきます。池子の森の木々を伐採すれば自然体系がくずれて、森としての昨日が損なう(マ)可能性があります。

2) 米軍家族住宅建設について： 不足した住宅は建設するしかありません。しかし、日本の住居と掛け離れた敷地面積を一軒一軒与える必要はないと思います。日本の尺度で、許容範囲内での居住地区を建設する。それで良いとおもいます。

いずれ、日本も日本人だけの国ではありえない、色々な人種の人々との協同の営みをする多民族国家で発展せざるをえません」（1248）

「・池子と同様、小柴貯油施設、富岡倉庫は金沢区民にとって貴重な財産であり、米軍施設建設の条件として池子、小柴、富岡の接収地が返還される事は喜ばしい。

・横浜市では小柴貯油庫の跡地利用として市南部地域の中核的な公園として使用する計画を持っており実現されれば市民が直接的に緑に接し（森林浴）憩いの場を提供することが出来る。又、区内にはスポーツ施設が少なく、青少年の健全育成の為、宿泊施設併用のスポーツ公園化も可能。

・小柴ほど敷地面積は池子にはないが小柴同様、広範な区民が利用できる機能的な広場が実現し、区民に潤いのある余暇を提供することが出来る。

・（池子住宅建設予定地）六浦駅周辺の幹線道路（逗子・釜利谷線）は狭く、その事が周辺の発展をさまたげている。一駅前の変化が見られない。

一周辺の山々が開発され団地が多数建設されたがバスがなく車を利用するため、渋滞の原因となっている。

一道路が狭く安全交通上危険が多い。特に逗子・釜利谷線はスクールゾーンとなっており、児童の通行が多いが、幹線道路でありながら歩・車道が区別されておらず、非常に危険である。等

現在逗子・釜利谷線の拡巾改修工事が事業決定されているが、住宅建設が本格的に進めば、幹線道路工事が年々進捗し、六浦駅周辺の安全性・機能性が高まり有意義であると思います」（1249）

「隣接している所の事ではありますが、直接何か、かわりがないので深く関心をもっていません。このことにかかわらず、私たちの届かないところで、いろいろ進行してしまっていることが多くありますね」（1255）

「米軍の家族住宅のみスポットを当て、家族住宅さえ増えなければ問題解決という印象を受けたのですが、もっと根底にあるものにも取り組む必要があるのではないのでしょうか？ これは絶対にありえないことですが、若し米軍が弾薬庫ならびに家族住宅を日本側に返却するとしたら、私はあまり好ましくないことと思います。現在の池子一体が緑の山々に囲まれ、自然がそのまま残されているのは、米軍の管理下に置かれているからです。若しこの一帯が日本側に返還されたら、全山の緑と自然はブル

ドーザーに押しつぶされ、あっという間にマンションが連立(マ)するでしょう。残念ながら今の日本人は「金」になりさえすれば、どんな乱開発でも辞さないように見受けられます。それも官民一体だから始末におえない。

ご存じのように昔、帝国海軍が横須賀に近い池子の山をくりぬき弾薬庫をつくりました。昭和 19 年の秋、私は海軍の教官に引率され、この弾薬庫を見学しました。それごと、大和級戦艦の主砲 46 c m 砲弾から消耗の多い 25mm 対空機銃、航空爆弾まできちんと管理されていました。現在の米海軍弾薬庫は帝国海軍からそのまま引き継いだのですから、現在は更に各種砲爆弾、ミサイルまで管理されていることでしょう。

現在、日本周辺から極東南方地域まで、比較的安定しているのは、米海軍の大型空母が日本の基地に配備されているからで、中国も北朝鮮、台湾海峡も波立ちが少ないのは二隻の米大型空母の存在のためです。われわれが比較的安閑としておられるのは、移動基地空母に負うところが大きだからだと思います。軍地基地総てをタブー視する日本人のなかには、こういう意見はつうじないでしょう・・・。弾薬庫と米軍家族住宅さえ撤去すれば、それで総てが丸くおさまると思う意見には「何事かいわんや・・・!!!」です。

最期にもう一つ話をさせていただけるなら、日本では通常動力の空母なら日本の港に何時入稿しても差し支えない。ただし、原子力空母の入港はタブー。ところが米海軍では空母は全部原子力でなければ建造させないと宣言している。日本のいう通常動力空母はしだいに廃艦にされる。これはアメリカ海軍の戦略の一つですから、日本の都合だけ通常動力艦を残しておけと言ひ張れば、米軍の方針とも矛盾するし・・・不可能な問題。それでも日本がどうしても残せと突っ張れば、通常艦艇の燃料費、修理費は全額日本側が負担しろとも言い出しかねないですね！！

それに米原子力艦艇の出入港は総て日本側に事前の通知が必要。池子弾薬庫には空母艦載機用の搭載爆弾一つとして、一昔前という「きのこ雲」の出る爆弾も含まれていると見るのが、軍事問題研究家の常識ではないでしょうか・・・？」(1264)

「池子の森に限らず、横須賀基地にしても環境がぜいたくすぎる。日本人が狭い場所に住み、米国人が芝生付のアメリカ並の環境に住むのはどう考えてもおかしい。基地がある以上、住宅は必要ではあるが、あれだけの空間と福利厚生施設を与える必要はない」(1265)

「緑豊かな自然を未来に残して欲しいと思うと同時に、思いやり予算も含め、在日米軍に対する日本の腰の引けた対応には憤りを感じる。池子の住宅問題について、横浜市側からの説明、情報は少なく、国政レベルの話しには国を出さないという立場には納得できない。住宅という観点でいえば、日本人からしてみればうらやましいくらいの設備と環境と聞く。米軍施設という点ではテロの標的など治安に対する不安がある」(1268)

「・住宅が必要なものなら妥協点を協議すべき。

- ・ 残念なことであるが、池子の森がこれだけ残っているのは米軍が管理していたからなのかもしれないと思う。
- ・ 自然保護も理解できるが・・・」(1269)

「逗子市と交わした国の文書を読めば、現在の国の見解は誤りである。米国追従外交の結果、やむを得ず現見解となったのであろう。日本外交の主体性のなさ、米国追従外交は米国の一州と同じと言えるかもしれない。日本の主体性を確立し、互いに率直に意見を主張し、相違を埋める努力が必要（見えないだけかも知れないが、）。この一連として、池子の森、座間への移転等の問題がある。戦後 60 年、石原氏ではないが、NO と言える国になる必要がある」(1271)

「私は米軍家族追加建設(マ)に反対する一人です。なぜ、この逗子だけをギセイにするのでしょうか。今まで米軍が利用していた瀬谷区の通信施設や南区の米軍住宅施設を活用することはできないのでしょうか。どうして追加するならば、周辺地域の環境整備（特に道路、交通、そして緑地の確保等）を十分に考慮していただきたいし、又それが国、自治体の責任でもあると思っています」(1273)

「先に逗子市側の〈池子の森〉に米軍家族住宅建設が住民の多くの反対を押し切って行われたが、その時もうこれ以上の住宅建設は行わないと約束されているのに、これを破って、又〈池子の森〉に米軍家族住宅を建てることを進めようとしている国や市に腹立たしさを感じる。政府は駐留米軍を少しでも少なくするよう努力すべきなのに、何故米軍住宅を追加建設しないでいけないのか？ 納得できない。しかも今どき非常に少なくなった都会の森林を伐採しての住宅建設には反対します」(1275)

「池子の森が自然のまま現在に至ったことは大変すばらしいことだと思っています。この自然を大切に後世に残して行きたい。一方でこの自然が守られたのは米軍が接収していたからであり、もし接収されていなければ、地の利から大規模団地になっていたのではと思うと非常に皮肉な結果だと思う。現在、池子に米軍住宅が造られ、その結果池子（逗子市）にどのような影響が出て来たのか、そのことを知りたい。追加建設により、横浜市内の接収地の何ヶ所か開放されることはメリットだと思う。池子の森の自然を守りつつ、そこに住む米国人、逗子市民、横浜市民が親しく交流し新しい街づくりをすべき時だと思います」(1280)

「米軍家族住宅も必要、池子の森も必要。お互いが良く話し合い、最良の結果を出して欲しい。池子の森は現在一般の人が入ることはできない。折角の森なので市民がたのしめる森として解放(マ)して欲しい。米軍家族とのふれあい、レクリエーションなどを行い、地域住民との交流をもっと行うべきだ。あまりにも外国人とすぎているようだ。米国の方々はいろいろな人種と接しているので、違和感がないと思うが日本人の閉鎖的な心があるので、お互いが歩みよるチャンスではないかな？ お互いが仲良く住みやすい池子を使ってもらいたいです。（中略）自然は大切です。緑があるところには笑顔がある。笑顔がみたいですね」(1282)

「・日米同盟は必要であり現在の家族住宅の規模はやむをえない。

- ・ 横浜市側の拡張問題は住民に情報が開示されていない。
- ・ 拡張に対しての逗子市の対応は支持したい。
- ・ 防衛施設庁のやり方には姑息さを感じるし不信感を持たざるを得ない。
- ・ 防衛施設庁に市民感情の理解、環境問題の理解を求めていくのは大変なことだと思います。もともと、このような認識は

非常に薄い特殊な行政部署だと思います。しかしながら行政庁である以上先ず第一に国民、市民の立場に立つべきだと思います」(1344)

「〈池子の森〉は我家の居住地の災害時広域避難所として指定されている。しかし、かつて一度も足を踏み入れたこともなく、緑に囲まれた広大な自然が残る地域である。〈米軍家族住宅〉は神武寺駅近辺から車窓より垣間見るだけであるが、ゆったりとした広さと恵まれた設備が充分想像できる。当地に住み始めたころは〈何一つ〉無かったところに、いつの間にか、あのような住宅が出現していた。横浜市側の自分たちと逗子市側の市長選を中心とした論争とが、結び付くことがないうちに、〈どんどん既成事実として出現する巨大な施設〉の感が強い。追加建設についての具体的知識は未だ持たないが、静かなあの近辺を車で通るたびに、不気味な雰囲気を感じる。横須賀の軍関連施設からの距離もあって〈アメリカ〉と我国の力関係を日頃は感じないで横浜市の南端に居住することを、このアンケートであらためて考えさせられた」(1315)

「元々、県内他の4地区の返還との交換条件での住宅建設は日米地位協定違反との声も多いし、思いやり予算での日米政府に追従した様な市政には疑問を感じる。また自然環境、保全、動植物の保護、CO2吸収に依る地球温暖化防止義務からも問題は有ると考える。たゞし、最近になり、横浜市の池子の森と六浦―逗子線の道路を挟んだ反対側に大規模な〈六浦霊園〉が開発販売を開始している。この開発に当っては、当初から中止の直訴が住民より出される等、問題が多かったが、この開発で一つの山が削られ、動植物の生態系が変わってしまった。古くは本牧地区の返還から間もないうちに、全地区宅地化される等の事例もあり、これらの現実を考えると、複雑な気持ちとなる。元々、池子の森自体が、旧帝国海軍が弾薬庫として接収、その後米軍の管理地になっていたため、現在まで珍しく残された事情があり、比べて周辺の土地が総て住宅地となっている状態を考えると余計に考えてしまう」(1356)

「直接、池子の森を見たわけではないのですが、京急逗子線から見ると六浦から神武寺にかけて横浜とは思えないほどの豊かな森があることがわかります。このような横浜では貴重な森が住宅建設のために開発されてしまうのは納得できません。中田市長は、〈次世代へ継承できる都市環境〉の実現を公約としてあげていまいので、都市に残る自然環境を次世代へ継承してもらいたいと思っています」(1359)

「三浦半島の中においても、自然が豊かで開発されていない手つかずの部分が多いと聞いています。鎌倉、横浜、横須賀にも隣接していますが、逗子市内の交通網が道が狭く、不便なので、金沢区側の利用が多くなると、六浦駅周辺の交通渋滞等、市民生活にも少なからず影響が出てくるのではないのでしょうか。又、できるなら自然が残ったままの状態であつた欲しい」(1360)

「余談を含めて恐縮ですが、米軍家族の逗子池子の地並びに招致してやりたい気味はないではありませんが、種々な点で問題が多く〈多く市長の招致〉には余り賛同できるものではないと考えさせられます。その点は次のような事柄です。

従来金沢区は八景といわれるだけあって、緑多く、海あり、山あり、古蹟等が多く、自然の美しい広重の描いた八枚の八景の絵のごとくであり、山に登れば美しい富士の山が眺められました。(今はシーサイドの車より一瞬見る事がありますが、今は山を削り開発によるビルがリンリツ(マ)し、多くの家並みなどにより自然環境が失われて戦時、終戦前の昭和の代の齢を重ねるに従い開発とやらで自然が失われ、八景は地に落ちてしまいました。

昔はこの地が〈日本憲法の発祥の地として、憲法草案を練った憲法草創之處〉、伯爵金子堅太郎書記念碑や伊藤博文の別荘、明治憲法記念館・記念碑等があり、各歴代有名総理の宿泊旅館〈東屋〉(中略)現在こわして跡かたなし。又、野口英世の最近(研究)検査室、野口記念講演も現在残っております。又、現小泉総理の旧家祖父小泉又次郎(逓信大臣)小泉純也(郵政大臣?)の実家もあります。

日本の海水浴発祥(宮の前海岸)の地であり、現在は横浜市の海水浴場は金沢八景海岸のみとなってしまいました。又、孫文先生の上陸地や、川合玉堂の二松庵や〈金色夜叉〉の貫一、お宮のお宮さんのモデル女の大橋邸(現在家はこわれてしまいました)。直木賞作家の直樹三十五の邸宅などなど、昔は北條、源氏の鎌倉、足利時代を経て現在に至るまで数多くの史跡を残しております。小生の家の山には北條氏の上行寺やぐらの一環となった矢倉が5つあります。矢倉群も開発の進み数少ないものになってしまいました。書ききれない程の名匠名相の人達や名跡の地として名勝としての八景の地が、山や緑の木を削り取られて、家やマンション、高層ビルなどが建ち、海は埋め立てられ緑が少なくなるという金沢の八景が無くなってしまったこの地を誰が憂えているのか景勝の地として、そして今復、少子化を考慮した場合、そして二次世界大戦の横須賀軍港と航空隊飛行場(追浜―現日産自動車)の隣の地として、戦争の対応はありましたが、戦災は金沢の地は幸いのがれましたが、此等を踏え将来を考慮した場合、山を削り緑をなくし、国税の金を使い、そして、これから来る関東大震災の地震エネルギーが大きくなりつつある(周期的に長くなっていることエネルギー大蓄積)と思われる事を考えた場合、火災のみでも区は全滅の憂を負うことにはないはしないか。現在の官公庁のレベルの低さ? ―これ等をあまり思考して仕事しない人が多い。遊んで高額給与の人が多いーを考えている日本の人が少ない点も考慮しなければならぬと思われまふ。又、議員の方々もレベルも同じ様な気が致します。

余計な事を買いましたが次にまとめてみますと、

1. 緑が少なくなり景観も悪くなり、交通量(現在非常に多い 16号、環状4号共々)も多く排ガスも多くなり居住者としては身体に悪い。(若者や救急車のピーピー音、ボカボカラジオ音に体をこわし多くなっている)。夏になると車が動かない状況である。事故も多い、道路の往来も非常に多く困っている。
2. そして外は音楽をかけて車を走らせるのがあり、それを若者がまねて、どかどかやりながら走ったり、止まって(道路)行っていたり、夜騒音はなはだしいスーパーにヨッテ(マ)食べ物を買ってきて車の中でドカドカやりながら寝止り(マ)している。本当にうるさく夜は寝れない。
3. 米軍人の家を建て山削り、木を切り、整地したりする費用は税金で対応するとすれば、現状の分散した家では何が問題があるのでしょうか。メリットは如何か。
4. 米人家の排出するゴミの対応は如何のものか。市長のG30の対応に金がかかり、市や区の財政にも(国の金を出してくられても税金であり)特別な費用になりませんか?
5. 今後少子化になり、既設の家、アパート、マンションが空き段々レベルの低い住民が多くなる傾向が考えられ、横須賀、沖縄地区の外人の種々な犯罪が多く、朝比奈に道路が出来た場合、朝比奈、東朝比奈、大道、六浦地区の犯罪環境も悪くなり、住民の引越が多くなる恐れあり。

6. 近く大地震が考えられ近く来るのでは？ これ等、家を建て緑少なく山を削られ金沢区は火を遮るのが無く全焼の憂きを見なければよろしいですが。山や緑を残すのがその対応の一では（神戸の地震の教訓等）
7. 逗子市が反対している理由を良く分析し、これ等を考慮して考えての対応をしてほしい。役人のレベルが伺えます」（1367）

「横浜市内で現に米軍が使用中の土地の返還を受ける条件であるからあまり反対すべきでない。恰も沖縄の基地縮小を口にしなが、その代替を自分の居住する地域に求められるのは否と云うに等しい。最も、何が最善かを判断する為の必要充分な情報の持ち合せはないが」（1372）

「私は幼少の頃本牧に住んでいました。周辺は米軍住宅です。今でこそ失くなりましたが広い芝生の家に住んでいる米人を見て、子供心にこの差はなんなんだろうと思いました。並木にもありますね。大人になってもついてまわる米軍住宅、理解できない部分がありますが、今の状態が変わることはないと思います。（池子の森）を守る事だけではなく、失くして欲しいもので、基地を・・・」（1396）

「地元住民への情報開示を意識的に避けている。国及び行政が矛盾を承知している。普段住民とのコミュニケーションを大事にしたいと言っているがどうなっているか。又、行政は住民との接触を形だけの行政の代理機関（実質）行政指導の「金沢区基地返還協議会」との接触で住民への説明を済ませようとしている。又、議事録を一方的に都合良く解釈している。地元連合町内会を抱き込んで（自ら行政及び連合町内会長へ問う）同じ考え方が示された。又、逗子市の三者合意違反の訴訟の国、県、横浜市ともに無視しようとしている。我々シロウト(マ)が事実経緯を調べても違反は明確である。又、〈池子の森〉の価値を理解しようとしな、普段環境の保全を大々的に「うたう」がこれだけの自然破壊が計画されているのに、安保の義務として米軍住宅増設せざるを得ないとした。ならば、今回の返還施設内での対応は考えられなかったか？ そういう努力も見られない、今回の件で行政に対する信頼を失ってしまう。残念です」（1403）

「昔、横浜の本牧地区に米軍の家族住宅が在った時代に、私は頻繁にそのエリアを通っており、その一帯の環境・雰囲気が好きだった。ところが、そのエリアが返還された途端に、コンテナヤードその他の劣悪な環境になってしまい、大いなる失望を感じたことを記憶している。

その後、池子に米軍住宅建設の計画が出た時は、むしろ歓迎の気持ちが強かった。ただ、現状を見る限りでは、本牧の雰囲気とはかなりかけ離れたものであるが、もう少し時間が経てば、緑の部分も増えて雰囲気も違ったものになって来るのでは、と期待している次第である。

いずれにしても、私には〈反対〉という気持ちは無かったため、当時からこの問題に関心は薄く、詳しいことはあまり記憶に残っていないが、反対を唱えて逗子市長に当選した人を含めて、反対派の意見には、〈環境の維持〉とは叫ぶものの、どのような形で維持するのか、という具体案は何も無かったように感じていたが・・・。

〈このように良くする〉という具体的な内容が明示されない限り、利権がらみで変な形に利用される懸念は、過去の事例から大いにあり得るという考えも、賛成の気持ちのそこにはある。

あとは、周辺住民を含めてお互いが閉鎖的になり、隔離しているような雰囲気が感じられるが、いろいろな形でもっともっと交流を深める活動を期待したい」（1417）

「私は〈池子の森〉近くのマンションに住んでいます。この地域には米軍家族住宅の増設が日本政府により発表されて既に2年が経過しています。この住宅建設構想は20階建ての高層住宅、800戸を増設するというものです。21世紀に入り環境問題が世界的に大きな課題となつていますが、首都圏に近いこの広大な緑地である〈池子の森〉に住宅が建設されることには反対です。

住宅の建設は環境破壊であるばかりでなく、米軍のための住宅であるからです。現在ある米軍住宅は、一般住民はその敷地に入ることが出来なく、地域交流も行われていません。（但し、1年に1回米軍側より地域住民との交流と称してイベントが行われています）。

私のマンション及び別棟には横須賀基地に勤務している米軍オフィサーが住んでいます。この人達や家族の方とは地域の活動等を共にしており、米軍基地に勤務していることへの政治的反感？を除けば日常の中では親しくお付き合いをしています。

米軍横須賀基地及びそれに伴う米軍住宅の設置は、日米地位強敵があり、また高度な政治判断になるため、容易に解決出来ない問題ではありますが、基地に近いという理由だけで〈池子の森〉に住宅建設を選定することは住民として許せません」（1419）

「あまり深くは考えていませんが、毎日池子の周りを（仕事から）車で走りますが、特にこれといった問題もなく、ただこれ以上は自然をこわして欲しくないと思います」（1429）

「9・11後、池子の門では日本の警察がしばらくの間警備をしていて危機感がありました。ロンドンのテロ等もあり、軍の施設はない方が良くと思います。犠牲になるのはいつも普通の生活をしている人です。（横須賀の基地開放はそれなりに楽しく個人個人は良い人だと思いますが・・・）

池子だけでなく、自然破壊してマンション、不要な道路等はもう造って欲しくありません。戦争は最大の自然破壊だと思います。我慢の必要があればしまうので、静かで平穏な毎日をごさす事が願いです」（1434）

「日本政府の弱腰外交のため米国の言いなりに事は進んでいる。既に住宅建設は政府間で決まったことであり、いまさら反対の仕様が無いが、せめて米軍住宅建設は広々とした庭付き一戸住宅ではなく、日本の国の事情に合わせた4～5階建のマンション形式にした土地の有効利用にも協力させるべきだと考える」（1438）

「市民が緑にかもまれて、過ごせる場所が少ないので、市民が自然とあふれる場として活用してもらいたい。住宅は、横須賀の基地内の土地を有効利用して建設すればよいのでは。住宅の間取りが広すぎるので日本サイズに合わせてもらいたい。そうすれば省スペースになるのでは」（1448）

「1. 一党支配政治による独善的で領土欲、支配欲の強い中国。優越意識の強い韓国や非人道的北朝鮮に囲まれた日本は現状

では米国に頼らなければ生きて行けない。又、拒否権を持つ国が支配する国連等当てにならない。

2. 米国軍人は命を的に日本に来ている。これを排斥することは人として道義に悖る事であり人が居れば当然生活空間は必要であり整備しなくてはならない。

3. 反米思想の左翼思想家の口車に乗っていると考へられる。

4. 逗子市には緑も多く環境破壊と言うことは、単なるきれい事に過ぎない。乱開発を規制すべきである。

5. 相手のことを考へる事は自分を安全に豊にする事である」(1449)

「池子の森と呼ばれる地域には、まだまだ自然が沢山残っているところです。六浦側から国鉄逗子駅の方へと歩いたことがあります。米軍基地側とこちらとの境を区切るように塀がずっと続いているところを歩きました。複雑な思いがよぎったことを思い出します。むずかしいことはよくわかりませんが、基地返還もされず、これ以上自然をなくすことは反対です。基地返還も遠のいてしまうと思いますので決していいことではないと思います」(1463)

調査票 B (裏面)

この調査および調査票について、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。今後の研究・調査の参考にさせていただきたいと思います。

		対象地		合計	
		逗子市	横浜市金沢区'		
自由回答(2)	回答なし	度数	197	168	365
		対象地の%	75.8%	79.2%	77.3%
	回答あり	度数	63	44	107
		対象地の%	24.2%	20.8%	22.7%
合計		度数	260	212	472
		対象地の%	100.0%	100.0%	100.0%

暫定的考察 — 今後の調査研究のために

1. 逗子の市民運動は、「市民的公共性」の典型だったか？

1980年代はぼその10年間を通して、逗子は「民主主義の実験」「わが国でこのようなタイプの市民運動が地域住民の支持を得て、粘り強く続けられた例はない」（『朝日新聞』1988年10月31日社説）としてマス・メディアをつうじてその社会運動の動きが注目された。論者は、この池子米軍住宅建設反対運動の過程と帰結を種々の調査で得た知見でまとめた⁷。一連の運動を積極的に「市民的公共性」⁸というカテゴリーでくくることしなかったが、マス・メディア諸機関の報道を超えて、運動体が各戸配布するビラが独自の公共空間を形成していたという点では、そうした枠組みで捉えることにも意味があったと考えたい⁹。

しかし状況は変化した。政府は2003年7月18日、かつて問題となった通称「池子の森」の横浜市側に米軍家族住宅追加建設計画を発表。2004年9月3日日米合同委員会施設調整部会で当初反対であった横浜市も同市内の米軍諸施設返還を条件に受け入れ表明、神奈川県も一定評価を示し合意。しかし逗子市は反対を崩さず、9月17日横浜地方裁判所に「池子の森に米軍家族住宅を追加建設してはならない義務等確認請求事件」として提訴した。

05年6月の調査結果一部をもとに、時代の変化を読み取りつつ、かつて考えられた「市民的公共性」が今や過去のものとなったことを報告したい。

1) 生活と環境のパースペクティブ — 米軍住宅追加建設と「池子の森」の意味連関

A. 法のディスクルスと生活のパースペクティブ

・「池子の森」領域確定の法のディスクルス

原告逗子市、被告国の裁判に代表される法廷ディスクルスの争点は、「池子の森」の領域確定にある。「池子の森」が、逗子市内に限られるか、それとも横浜市金沢区の一部も含むかということが争点であるが、政府も「不用意に」「池子」を逗子市の領域外に及ぶ事柄にも、しばしば使用してきたというのも事実である。

・想像の共有地としての「池子の森」

「生活」のパースペクティブということ言えば、「池子の森」は、周囲住民のほとんど誰も足を踏み入れたことのない場所という点では、視覚情報と間接的自然科学情報に限定される「想像の共有地」である。つまり、自分たちの生活と環境をどのように捉えるかにより、近くにあるが遠い「池子の森」の意味も大いに変化するということである。

B. 環境へのパースペクティブと「戦争」の意味転換

二つの方向についてさまざまな原理主義的主張が可能であり意見集約は難航し合意の達成は難しい。

・原理論と現実論 I

地球環境保全という理念に従うなら、「首都圏に残る貴重な緑を保全する必要がある」というのは正論である。そして「戦争」が最大の環境破壊であるというのも間違いはない。「家族住宅」といっても、それは軍隊の家族であり「戦争」とつねに密接に関係しているというのもそうである。

しかしながら、今回の調査では「戦争」のイメージに変化が生じていることを大いに感じる。北朝鮮問題に代表される日本の防衛とアメリカ軍の存在意義が、1977年米海軍機横浜市緑区墜落母子三人死亡事件、1995年沖繩での米海兵隊員による少女暴行事件とその後それに類する悲痛な諸事件をかき消すように肯定的に捉えられる傾向が明らかに見えるということである。あの種の悲痛な諸事件は駐留軍がいなければありえない問題であるが、「今や駐留軍は必要であり、それはそもそも日米安全保障条約により約束されていた事柄である」とも解釈される。戦争反対による（軍事）施設建設反対、地球環境保全はもちろん言うに待たず大切であることはわかっているが、アメリカの核の傘・軍事力は必要だという、原理論と現実論の並立である。

かつての「池子米軍住宅建設反対運動」はこの構造的カップリングを判断停止して、すなわち日米安全保障条約をはじめ政治問題は括弧に入れて、反対運動を進める戦略をとった。それゆえにしばしば強い原理論を主張することができたし、この原理論を支持する層が、「より以前の現実論」すなわち米軍住宅建設による見返りを期待する層よりも数の上で多かったということである。

このある意味での「成功」は、「戦争」のコンセプトが急激に変化し、日米安全保障条約のそれも変化していくことで、新たな「現実論」が強くなり続ける可能性があり、普天間の問題同様、「守ってもらっている限り、どこかで引き受けなければならない」、そういう意味での受け入れやむをえなしという考え方が強くなる。

・原理論と現実論 II

すでに逗子市にはアメリカ軍家族854世帯およそ3300人が居住している現在では、国際政治論のレベルでの現実論とは違うレベルでの現実問題を考えざるをえない。例えば県道逗子横須賀線の交通量（渋滞および交通事故）等の問題である。横浜市側に追加建設されるとしても、通勤の自家用車はすべて逗子側を通り横須賀に向かうの

⁷ 森 元孝『逗子の市民運動 — 池子米軍住宅建設反対運動と民主主義の研究』御茶の水書房 1996年。

⁸ 森 元孝「公共性の形式 — 理論社会学の基礎理論」『社会学年誌』46号 2006年。

⁹ 森 元孝「市民的公共性」地域社会学会編『キーワード地域社会学』（ハーベスト社 2000年）218-9頁。

ではないかという心配である。これは沿線の住民には目に見える現実的脅威である。ここでは環境保護の原理論は住環境・道路事情の悪化懸念と同義となる。この水準の環境保護論は最初の原理論とは重なりつつずれるようにも見える。

この水準は、市長の交渉術により、条件付受け入れによる見返りの可能性を期待することで満たされる可能性がある。追加建設受け入れを表明したN横浜市長の判断はこれにあたると思われる。逗子市の場合にも、例えば六浦側出口の利用、あるいは横浜横須賀道路への直接接続などで妥協できるのかとも考えられる。

もう一点、すでに過去の建設反対運動の過程でもあった議論であるが、居住する米軍家族との交流を深め仲良し・友好関係に意義を見出すべきであるという議論をかつてとは違いたいへん多く見ることができた。こうした一種の異文化コミュニケーション論、一種の共生社会論も、昨今の原理論であるかもしれない。ただしこの時、すでに「戦争」や「軍隊」の意味は変化している。

皮肉なことにオープン化は異文化交流という原理実現のみならず、今ひとつの開示効果がある。すなわち、「彼ら」がどういう生活をしているのかということがわかるということでもある。どうして「彼ら」はそういう「贅沢な」生活ができるのかという問いである。この開示は、異文化理解が本来のそれとは異なる「異文化」を理解させてくれることでもある。「日本政府丸がかえの生活とはこういうものか」「日本人の住宅事情を考慮すべき」というような感想とやっかみであり、また「日本を守ってくれている以上当然である」という「理解」である。

・原理論と現実論 III

今回の追加建設は量的な点で、全体が現状の二倍近い規模になるということで大きな変化であるが、これまでも軽微な追加建設は存在してきた。域内への本設小学校の建設、学童保育施設の建設である。この点は、たしかに一度建設を許すと、自然はどこまでもなくなっていくということの証拠かもしれないが、実はこれもすでに過去の運動の時点でも言われてきたことであるが、米軍施設として接收されていたゆえに、自然の保持ができたという考え方も実は説得力がある。つまり、米軍が接收していなければ、その周辺を見れば一目瞭然、もうすでにすべてが住宅地になっていたはずだという意見である。そういうところに住んでいる人が、自然保護、建設反対などと言っているのだ、エゴの典型だ！という意見は必ずしも少なくない。

さて「自然はどのように守られるのか」、この原理的問題が重要である。仮に返還されたとして、逗子市が昔から考えているような跡地利用計画で果たして妥当なのかどうかということである。国営大自然公園、種子バンクなどの創設という考え方であるが、現実には接收地であることで緑が保全されているのであり、原理論としては返還後の保全計画とその合意は実はきわめて難しいのではないかという問題がある。「自然観」「環境意識」は人によりずいぶん違うし、それを「指導」する識者のポジションは限りなく揺らいでいる。「緑」を政党にできなかった日本の政治風土もある。

この点で米軍家族住宅であることによる緑保全がもっとも現実的だという考え方も説得力がないわけではない。わが国、都会部の自然公園建設が実は自然破壊そのものであるという例もあるように思う。

・消される記憶「原理論と現実論 IV」

かつての反対運動の時代にも、土地の返還訴訟が存在していたが、かの地は、たしかに米軍接收地ゆえに自然が保護されてきた、あるいは日本に返還されるよりも、米軍が住宅を建てるくらいであるなら、より自然が保護されるのではないかという意見もありうるが、すでに裁判での決着はついているが土地を収用されたかつての居住者たちの意見は根底を揺すぶる。

「かつてこれらの接收地ないに縁のあった家系。先祖代々の生活の場。池子の森と呼ばれているが、旧住民は池子神武寺駅付近を久木字柏原地区。池子の森の自然について逗子を二分化するかのような政治のゆがみを生んでしまった。しかしその自然度について大さわぎなどするほどの高さはない。戦後の利用目的が終結してから単に一般人が入り出ない地域というだけであって自然度は低い。特に集落の山里の生活の場とは里山であり、各戸のかつての屋敷は埋立てられてしまっているし里山は常に燃料確保の場とし炭やき、炊木、木材生産の場で山の屋根から里道までの間はいつもきれいに山々には人の目と手が入って手入れされていた。やっきになって保護の声を上げる価値の植生群落はない。池といっても生みたて未完の地に雨水が溜まったにすぎず、奥の池も農業用水として毎年村人が手入れしていた。近年久木地区で〈ほたる〉が出る。農薬のない水が今も出てくるからである。誠に残念なことは人の手、目の入らぬ自然（里山）は藪性植物で見苦しいありさま。里山の自然は適宜人の手が入り治山治水が保たれていた。粘土質（ドタン質）の山肌は成長しすぎた枝張り根張りのアンバランスから山裾の地すべりが発生していたらしい（里山は枝下ろし作業こそ生活文化といえる）」(0466)

C. 生活と環境のパースペクティブ

「池子の森」のイデオロギー：「池子の森」とは「想像の共有地」であるが、実はここはもともと居住地であった。旧日本海軍が強制移住をさせた土地であったということであり、この記憶を埋めて80年代の運動と、現在の法ディスクルスが作動しているということである。

「戦争と平和」のカテゴリーのゾンビ化：20世紀後半「平和」のリアリティを析出させることに失敗してしまった日本社会は、もはや「米軍家族住宅」も「家族住宅」であることでよいということになる。「軍人」「自衛隊員」もひとつの職業選択だということになってしまうのかもしれない。

2) サブ・ポリティクスの再プロフェッショナル化

A. 「市民的」と言われること

1987年から94年にかけて繰り広げられていた池子米軍住宅建設反対運動は、この時代の「市民」が主役、「市民」を自覚して、より正確に言えば「市民」というものになりきろうとしていたことに特徴があった。この運動過程で当時のT市長も、後任のS市長も、まさに市民の代表という意味があった。その素人くさは時にポジティブにそして時にネガティブに評価されたが、市民の中から出た市長というのは事実であった。しかしながらその状況は変わったように見える。

N市長支持理由を見る「市民的」ということ¹⁰

- ・ 「住民の意見を聞きながら政策を進めるところ」(2: 67歳男性・現住地在住32年・持ち家)
- ・ 「市民の意向を積極的に政策に取り入れ努力している」(15: 69歳男性・現住地在住37年2ヶ月・持ち家)、「市民対応型の市政」(24: 64歳男性・現住地在住10年・持ち家)
- ・ 「市民の目線に合った行政をしようとしている」(71: 58歳男性・現住地在住22年3ヶ月・持ち家)
- ・ 「教育、福祉、街づくりに積極的で、市民の情報公開もすすみ、市政が身近になったから」(193: 30歳男性・現住地在住5年5ヶ月・持ち家)
- ・ 「市民参加を促している部分について」(208: 59歳男性・現住地在住17年・持ち家)
- ・ 「市民の立場にたった業務を行っている」(218: 58歳男性・現住地在住37年2ヶ月・持ち家)
- ・ 「市民の意見のくみ上げと市政への反映」(260: 71歳男性・現住地在住30年・持ち家)
- ・ 「市民中心的な施策」(277: 70歳男性・現住地在住28年・35現住地在住10年・持ち家)
- ・ 「市長さんの仕事が私共には解りやすい」(295: 69歳女性・現住地在住32年3ヶ月・団地)
- ・ 「若さ、住民本位の政策を懸命に努力しようとする姿勢」(336: 69歳男性・現住地在住30年・持ち家)
- ・ 「市民の視線での政治」(364: 70歳男性・現住地在住20年・持ち家)
- ・ 「市長としての動きが判りやすくなった」(384: 58歳男性・現住地在住58年・持ち家)
- ・ 「市民の意見を聞く姿勢がある」(415: 57歳男性・現住地在住4年6ヶ月・持ち家)
- ・ 「市民、国民のための政策・金権政治にくみしない」(433: 84歳男性・現住地在住8年4ヶ月・借家)
- ・ 「花火大会を20:00からにするとか(都内通勤市民の帰宅時間を考慮、夏の成人式を催す、小中の学区をなくすなど、若年層に優しいと思うため)」(462: 48歳女性・現住地在住12年1ヶ月・持ち家)
- ・ 「権力的でなく、封建的な政治家や団体のしがらみがないこと」(224)¹¹

これらの「市民的」という言われ方は、「市長が市民的な視点を持つようになった」というそれである。「市民的」の意味が変化したようである。かつての反対運動の中から生まれ出たT市長、S市長はそもそも市長になろうとは思ってはいなかったであろう。むしろ偶然的な状況で市長にならざるをえなくなったというのが正しいところである。これに対して、N横浜市長の場合もそうであるが、N逗子市長も、プロフェッショナルな政治家になるという強い意志・希望と、そのためのキャリアを積んできた¹²。それゆえに、「市民的」であろうとする「パフォーマンス」が不可欠となる。と同時に支持しない人の意見にあるように、「パフォーマンスが多すぎ」(22人)「将来像が見えない」(11人)とともに次のような否定的意見も出てくることになる。

- ・ 「今、彼は反対の姿勢をしめしているが、もともと保守的な考え、いずれM元市長と同じに何らかの理由をつけてうらぎるであろう」(35: 59歳女性・現住地在住60年・持ち家)
- ・ 「アドバルーンばかりで市民にとっての市政ではない。実がない政策ばかり、議会軽視、近頃は特に市民参加という名のもとに市民に丸投げ!!!」(315: 久木在住20年2ヶ月・持ち家)
- ・ 「市民の現実的な問題解決に力点を置かず、国政にかかわる問題を重視してスタンドプレーをする」(163: 79歳男性・現住地在住33年・持ち家)
- ・ 「他地域からやって来て国会議員になる為に腰掛的にやっている市長で、元々住民のためとゆうより対外的に目立つ事ばかりやっている」(377: 75歳男性・逗子在住72年・持ち家)
- ・ 「夏の成人式をSeaside Wedding Rivieraでする必要があるのか。立派な文化プラザホールでなぜしないのか。彼の趣味で市税の無駄遣いはやめてほしい」(388: 38歳男性・現住地在住5年2ヶ月・社宅・官舎)
- ・ 「この米軍住宅地問題について裁判まで行こうとする政策は間違い」(452: 72歳男性・久木在住28年・持ち家)
- ・ 「逗子都民といわれる人たちの票あつめにばかりとらわれるようなことばかり目立つ。海岸の美化はよいとしても(中略)目先の行動、人気取り、でも本当に市を活性化することを考えているのか? 池子米軍住宅についても、もっと、かけひきをしてほしい」(470: 43歳女性・現住地在住43年・持ち家)

いささか厳しい批判と言えるものも見えるが、こうした批判があたっているとすれば、「米軍住宅の追加建設反対ゆえに支持した」(43人)という支持理由も別様に見える。N逗子市長は、1999年12月に初当選、2002年12月に第二位候補の二倍近い得票(12471票・投票率52.48%)で再選されたが、「米軍住宅追加建設反対」への信任を得るために2003年8月突然辞任・再立候補・三選という経歴を経ている¹³。これは、1987年T市長がとった方法

¹⁰ 時間の関係でここでは割愛するが、同じことは同時に横浜市金沢区で実施した調査結果から横浜市長についても言える。

¹¹ 上述の「市民的」と、「市民参加の街づくり」に言及したものはのべ数で40となる。既成通念にとらわれない「しがらみがない」「独自性がある」の言及があるもの、のべ28。「若いこれ迄の政治家の様に過去のシガラミにあまり縛られることなく新しい観点からこれからの逗子を考えている」(237: 69歳男性・現住地30年在住・持ち家)。

情報公開「オープン」「クリーン」の言及があるもの、のべ35。「判断力、実行力、クリーン、指導力あり」(41: 65歳男性・現住地在住25年・持ち家)。

¹² かつてのT市長は京都大学理学部、東京大学大学院理学研究科博士課程で天文学を修めた。N逗子市長は早稲田大学教育学部社会科学専修卒業、フジテレビ記者を経て、青山学院大学大学院法学研究科、東京大学法学研究科大学院を経て政治についての専門的知識・ノウハウを学んできたと考えられる。N横浜市長は松下政経塾の出身者である。

¹³ この時の選挙は、N市長は「増設反対の信認」ということで望んだが、対立候補が掲げてきたのは沼間地区への病院建設反対であった。N市

と酷似しているが¹⁴、意味は違って見える。

もっとうがった見方をすると、「特に問題がないし、適当な人材がいなかったので投票した」(12人)というのも正当な選り方となる。「追加建設反対」、そしてそもそもの「池子米軍住宅建設反対」ということについて、「ゆえに市長を支持する」(43人)「ゆえに市長を支持しない」(5人)が同居もすることになっている。

B. 法ディスクルスのプレイヤー

今後のことはわからないが、かつての「池子米軍住宅建設反対運動」が再燃することはない。しかしかつての反対運動は、リソースとして今の法ディスクルスを稼働させる燃料となっている。すなわち「池子の森」の領域は、法のディスクルスで「意味の明瞭化」がなされてしまうように見えるからである。

当該地域に日本政府が追加建設の計画を発表するのは、2003(平成15)年7月18日である。政府(横浜防衛施設局)の表現も、逗子市との応答関係の中でも「池子住宅地区及び海軍補助施設に係わる米軍家族住宅建設計画」としており¹⁵、国も「池子」という名称は使用しているが、現在「池子」は逗子市内の町名である。

さて、2004年9月17日に原告逗子市が被告国に対して横浜地方裁判所に提訴した「池子の森に米軍家族住宅を追加建設してはならない義務等確認請求事件」訴状では、「<池子>の森」とされる地域はもっと広い地域を示している。すなわち「1994(平成6)年11月17日、原告逗子市は、被告国及び神奈川県との間において、<池子の森>における米軍家族住宅建設事業に関して、同<三者合意>において、被告国が、横浜市域に所在する本件土地を含む<池子の森>において、今後は米軍家族住宅の追加建設を一切行わないと約束し、さらに当該計画地を除く<池子の森>の緑地を現況のまま保全することを確約したことを受けて、当時計画されていた米軍家族住宅854戸の建設を受け入れたのである」という領域を言う。「常識的」解釈をすれば、すでに1983年7月に当時のM逗子市長が受け入れを表明し国側と33項目の条件交渉をした時点においても、またその後逗子市が反対姿勢を明瞭にした後の神奈川県のアセスメント審査においても横浜側を敢えて切り離して議論をしたことはなかったこと、とりわけ横浜市金沢区においてもアセスメントを実施していることを考えると、<池子の森>には逗子市も横浜市もないのかもしれない。

ただし今回の特徴は、この問題を反対運動という市民運動によってではなく、その記憶をリソースにして政治のプロフェッショナルが法廷ディスクルスで議論をしていこうというところにある。こうした法的ディスクルスへの姿勢は、1982年から展開された「教科書民主主義」の実践、「でもくらし」、週報「すじ」などのウィットに富んだ、そしてしばしば国や関係官庁に奇想天外な対抗手段を駆使して、全国に向けてマス・メディアを振動させ、注目を浴びた市民運動のそれとは異なる。この点では、かつての運動の経験は今や記憶、痕跡としてしか残っていない。

現在の逗子市がとっている方法は、一種の法万能主義である。かつての運動の過程においても、同様の手法が用いられたが、これはそれ以外の手段も講じていた中での選択肢のひとつであったという点で異なる。「主題化」の可能性は「法」に依拠するというものである。たしかに判例法に依拠するとしても、論者にはこれはすでに法以外の社会的相互作用の可能性を法に縮減しているとしか見ることができない。このとき、「市民的公共性」はすでに「専門家に依拠した公共性」ということになってしまっている。かつての運動体が、文化人、専門家をIGOC(Ikego Green Operation Center)なる仮設シンクタンクに押し込んで、運動の主体を「普通の市民」に限定したところとは本質的な違いがある。

C. 文化の調達

しかしながら、現在の逗子市の姿勢も、まだなお公開性の批判的機能を稼働させようという形式を維持していることはたしかである。かつてと今とに一貫するものは、「中央政府」に対する「逗子」の同一性確認という「市民的公共性」の宣揚である。ただし過去と現在との違う点もある。すでに述べた「市民」の内容の変化であり、さらに重要な点は、この「政府」についても、さらに「中央」と「地方」とを区別して見せる主題化作用の帰属先である。これは今「N逗子市長」にある。この点が特徴である。かつては運動体が「市長」を産出させた。「運動体」は「普通の市民」とともに、生み出した「市長」とも特徴的な構造的カップリングの組み合わせを保っていた。現在は、この三重関係はなく、「市長」と「市民」という関係(これもカップリングではあるが)にとどまっておき、「市長」による問題の「主題化」のみが「批判的公開性」を形成している。

この「市長」への帰属をどのように見たらよいであろうか。東京都知事石原慎太郎を高く評価する「現市長」であり、立候補の推薦人に石原慎太郎東京都知事の名がある。「市民」の先頭に立って国への裁判に訴える、ある種シンボリックな政治手法と、消え失せた市民運動との関係は意味深い。経済的次元では1990年代は失われた10年と言われるが、政治的次元でも何か失われたのである。

かつての運動の記憶が、今の活動のリソースとして用いられるとしても、それは無尽蔵ではない。またかつての運動へのネガティブなまなざしは少なからず存在している。ゆえに、パフォーマンスをする場を、より多様に見せるためには、さまざまな「文化的資源」を算出させていかなければならない。「法的ディスクルス」が勝利に終わっても、また敗訴に終わっても、その意味を救出するリソースはつねに用意していかなければならない、それがプロフェッショナルな政治家の必要条件である。

長 14232 票、対立候補 10310 票であった(投票率 50.48%)。

¹⁴ 森前掲書 209 頁以降。

¹⁵ 横浜防衛施設局長発逗子市長宛文書(施横第 3377 号(YFP)平成 16 年 6 月 22 日)。

この夏「太陽の季節」の映画会が催され、文学記念碑が作られ、一種のレトロ調の資源が創出されることは舞台には不可欠なことなのである。この点は、石原慎太郎その人とは違うところである。

2. リソースとしての石原慎太郎

さて東京について触れておこう。青島幸男の登場で、東京都知事のシンボリズムは変化する。臨海副都心開発の再検討は、その瞬間には「教科書民主主義」型のそれを期待させたが、結果報告書は、地方自治体の規模の途轍もない違いから、不明瞭な両論併記で終わる。この終わり方ゆえに、青島とは正反対の石原慎太郎の登場へとつながっていったように思う¹⁶。

すなわち、今や政治的事案は、討議と合意によるプロセスを経るという手法は不可能であり、指導者のシンボリックな行動と、それに共感する感性水準での政治行動の完結が理想の時代に入ったということのように思う。そして「弁菊」ふうの「庶民的」であるよりも、もっと脱「庶民的」な文化水準が必要になったということのように思う。この原因は、「都民」が「市民」ではありえないからである¹⁷。ただし逗子でかつてはありえ、そして今はないこととは少し違う。

推薦人「石原慎太郎」はN市長とは違う。スポーツ・ウェア、トップダウンなどパフォーマンスではよく似ているが、前者はその人そのものが文化の発信者であったし、その作品に共同体験をし、それを今の意味に結びつける人々を多く持つことができる点で特異である。投票率が年齢を増すとともに高くなること、そして現在、このことがこの人との共同体験が有意となる、ある過去へのノスタルジーがあることを考えると、この層から「若さ」を支持してもらえることが、再プロフェッショナル化の時代の政治家には不可欠の条件である。この年代は、これから次の時代、かつて「弁菊」「シャボン玉ホリデー」「スーダラ節」「早稲田」「いじわる婆さん」を集合記憶としてもつ世代へと移行する。ただしこのコンテンツは、もう使えまい。それゆえ、再プロフェッショナル化した政治家には、文化の調達が焦眉の問題となる。

¹⁶ 森 元孝「代表制のリソース <東京都知事>という人格連鎖が構成する公共性」『社会学年誌』第43巻 早稲田社会学会。

¹⁷ 森 元孝「巨大都市の民主主義 - 東京都臨海副都心開発問題の調査研究のために」『社会科学討究』第43巻3号 アジア太平洋研究センター、1998年。

米軍住宅追加建設についてのアンケート調査結果報告書

2005年12月24日 発行 非売品

編集 森 元孝
発行 早稲田大学文学学術院森 元孝研究室
〒162-8644
東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院
印刷 *Nippon der Gesellschaft* 研究所
〒162-8644
東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院森 元孝研究室内

